WASON
HQ
1104
J94+

Sept. 1890
no. 232

女學雜誌

明治二十三年九月廿七日發行
第二百三十貳號
一册六錢。每土曜日發兌。

中村敬宇先生
文學者とホーム
癖人物
下宿屋改頁論
人世最幸福の時

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 232. SEPTEMBER, 27TH. 1890.

EDITORIAL :—The Eccentric man. Improvements on the Boarding-house for students.

MISCELLANEOUS :—The Art of testing "Naginata." The influence of Literature upon home. An interview with Mr. Nakamura Keiu the Superintender of the Girls Normal School. A thanks giving of a New-parent. The morning on the sea shore. The view of Human life. An unprepared man; A Careless man. The happiest time of woman's life. A Summer Journal. Humourous.

NOVEL :—"Little Lord Fauntleroy."

OPEN LETTERS.

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百三十二號目次

社說 畸人物と下宿屋改良論

雜錄 薙刀の法○文學思想の盛衰ホームの影響○敬宇中村先生を訪ふ○新たに兒を擧たる人の感謝○礒邊のあしたゝ○人世觀○預備なき人、輕卒の人○消夏錄○女子一生中最幸最福の時期○きよめぬ匙

小說 小公子

寄書 女學雜誌記者に質す(綠村女史)

開書 天地神學說○麻布吳服屋小谷氏に謝す○質詢

時事 條約改正○之が爲めの祈禱會○時事雜○北海道○新聞紙ふくば天下太平○堯舜の政○土陸三等館○土耳其軍艦沈沒○赤十字社○ドラモンド氏來る○淨土宗訓示○笑談○盲人の東向會○貧民救助策○大坂婦人學習會の運動

片々 杉浦子逝す○香坂虎子○富岡製糸場の下○津田品子女史逝く○日本樂曲會○印度婚姻法の改正○高田私立女學校○德山女學校○防長婦人相愛會○貧民救助音樂會○伏見婦人慈善會○近江婦人善○桂夫人○札幌婦人慈善會○高知英和女學校○其他數件

WORLD'S W. C. T. U.

Founded 1883.

Motto.—For God and Home and Every Land. Object : To unify the methods of woman's temperance work the world over, and to circulate a petition for the prohibition of the traffic in alcoholic drinks and opium, and other social reforms.

All members wear a little knot of white ribbon, and remember the noon hour of prayer for all temperance work and workers, and for the coming of Christ's kingdom.

President—Miss Frances E. Willard, Evanston, Ill.

Vice Presidents—England, Lady Henry Somerset, 16 Memorial Hall, Farmingdon St., London, E. C.

Canada—Mrs. Fawcett, Toronto.

China—Mrs. Dr. Farnham, 18 Peking Road, Shanghai.

Japan—Mrs. Saku Asai, Tokio.

Hawaiian Islands—Mrs. Mary S. Whitney, Honolulu.

New Zealand—Mrs. Catherine Fulton, Dunedin.

Queensland, Australia—Mrs. Elizabeth Brentnall, Box 61 G. P. O. Brisbane.

South Australia—Mrs. E. Nicholls, Prospect, Adelaide.

Victoria—Mrs. Mary M. Love, Armadale, Melbourne.

Ceylon—Mrs T. S. Smith, Tillipally, Jaffna.

India—Mrs. McDonald, F. C. M. Calcutta. Nat. Lecturer, Pundita Ramabai, Chowpati, Bombay.

Burmah—Miss Ruth W. Ranney Rangoon.

Turkey—Mrs. W. E. Locke, Philippopolis, Bulgaria.

Africa—Miss Pride, Huguenot Seminary, Capetown.

Siam—Miss Mary L. Cort, Petchabmee.

Sweden—Madame Andersson-Meijerhelm, 17 Sodra Humlegardsgaten. Stockholm.

Straits Settlement—Mrs. Marie Oldham, Anglo-Chinese School, Singapore.

Mauritius—Mrs. Bishop Royston, Bishop Thorpe, Rose Hill.

Norway—Fru Ignase Carlsen, Nordal Bruns Gade 10, Christiania.

New South Wales—Mrs. E. Bowes, Stanmore, Sydney.

Tasmania—Mrs. Grace Saltan, Mildmay Cottage, Launceston.

Mexico—Mrs. Margaret Taber, Zacatecas.

Jamaica—Miss Mary Dillon, Machioneal.

Chili—Mrs. Ida A. T. Arms, Colejio Americano, Concepcion, Chili.

Corresponding Secretary—Mrs. Mary Clement Leavitt, care of Miss Amy Leavitt, 1226 Massachusetts Ave., N. W. Washington, D. C.

Secretaries—American—Mrs. Mary A. woodbridge, Ravenna, Ohio. British—Mrs. Mary Whitall Costelloe, 40 Grosvenor Road, Westminster, London, S. W. England.

Treasurers—American—Miss Esther Pugh, 161 LaSalle St., Chicago, Ill. British—Mrs. James Gregson, Heart's Hill, Debden Green, Loughton, England.

World's Organizers—Europe, Miss Charlotte A. Gray, Stensberggade 25 Christiania, Norway. Northern Europe—Madame Andersson-Meijerhelm, 17 Sodra Humlegardsgatan, Stockholm, Sweden. American Committee—The five General Officers of N. W. C. T. U.

Supt. Department of Bible Readings—Mrs. Hannah Whitall Smith, 44 Grosvenor Road, Westminster, London, S. W., England.

Supt. Department of Scientific Temperance Instruction—Mrs. Mary H. Hunt, Hyde Park, Massachusetts.

Supt. Department of Prisons, Police Stations and Almshouses—Mrs. J. K. Barney, Providence, R. I.

American Supt. Legal Dept.—Mrs. Bishop John P. Newman, Omaha, Neb.

Supt. Fairs and Expositions—Mrs. Josephine R. Nichols, 519 N. Pennsylvania St., Indianapolis, Ind.

Supt. Dept. Peace and International Arbitration—Mrs. Hannah J. Baily, Winthrop, Me.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百三十二號 明治二十三年九月廿七日發兌

社説

癖人物

今の世、好人物多し、然れども亦た癖人物尠なからざる也。凡俗、好き人と云ふ所ろのものは、柔弱因循にして敢爲斷然の氣象なきもの是れ也、斯の如く、斯の正しき人と云ふ所ろのものは、奇矯偏癖にして頑固石の如く、極めて融通の利かざるもの是れ也。吾人は好人物を珍重せざると同もに、亦た癖人物を好しとせず、之を斥ぞくると一様にして、二者を前後するとなし。

古人云へらく、英雄は一種の氣違ひなりと、亦云へらく、詩人は天地の美に狂するもの也と。謂ふ所ろ蓋し一力一能に上達するもの大率ね偏する所ろあらくんばあらずと爲す、たとふるに猶ほ土砂を盛るが如し、之を平面同等に均らす時に於ては、凸凹不齊の狀なくして至つて公平なりと云へど、然も徒然として雲表を磨するの高岳奇峯となると能はず。亦もし之を積んで天の巓だきに達せしめ、雷電を其懷に遊ばせ、雲雨を其足の下より呑吐せしめんには、峻秀奇屈、拔然として天地四方の一異觀たるとを得ると云へども、然も温平平然として万民の昇降に便よりよき岡陵となると能はず。夫れ積む所ろの土砂多き少なきの差ありと云へど、到底其の限りとする所ろなくんばあらず、限りあるの土砂を盛つて之を上にすれば横に平らかなる能はず、之を平らかにすれば上に高きと能はざる也、人物の短長亦如此し、すぐれ人多くは欠けたる所ろあり、欠けなき人大概ね平々凡々たり、其理他なし、能力を横に均らすと、竪に積み上ぐるとの差違より起る。

然りと云へども、常に如此くなるを以て、人の窮極する所ろなりと誤認すると勿れ、人は僻するとなくして能く發達するとを得、圓滿にして且つ聖賢となると敢て難きにはあらざる也。云く、君子は威ありて猛からず。聖人は恭やしくして嚴ならずと。所云る文德に兼ぬるに武膽を以てし、英雄に加ふるに君子を以てし、創業に合はするに守成の才を以てし、解剖の智見に綜合の哲思想を併せ、而して後ち人完然に近づくとを得。人の完然に近づくもの之を聖人と云ふ、聖人の古來少なからざるとを思ふときは、人學んで此に到ると能はざるにあらず。人生窮極の理想必らずや此に達せずんばある可ら

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ざる也。

理想此にあり、而して未だ能く之に達せざるものは、寧ろ可あり、何んとなれば彼れ勵精して止まずんば遂に其所ろに到るヿあらんがゆゑ也。只だ夫れ、奇矯なるを以て正しきとなし、偏僻あるを以て俊傑となし、大功は細瑾あるがゆゑ之を能く成就し、豪傑は欠くる所ろあるを以て能く大なるが如くに誇任するものに至つては、愚の甚はだしきを憫れみ悲しまずんばある可らず。或人かつて少年の品行につきて談じけらく、放蕩するほどのものにあらねば大事業なしがたし、酒を飲むほどのものにあらねば英氣發なひがたしと。今の癖人物を以て英雄俊傑の如くに思ふものは、やゝ此の或人の想ろかあるに似たり。

悲しきかな、今の同胞、此の愚を學ねびて、癖人を重んずるヿ一方ならず、之を以て癖人亦いよ〳〵調子に乘り、其くせありて殆んど氣違ひじみたるの故を以て、已れ之れあるが故に英雄なると娛うごめかし、傲慢無禮、傍はらに人なきが如き所作を爲して、反つて揚々たるもの至つて多し。小さきは彼の壯士と云ふもの、一種を見よ、壯士中眞の壯士なきにしもあらず、然も其一種はたゞ癖人物を學びて未だ癖人物丈けにすら及ばざるもの也。大ひなるは今の義人、宗教家、もしくは社會改良家と自稱する所ろのものを見よ、着眼一方に偏し、終始凝り固まり、眼中人世の大觀なく、たゞ片寄りたる批評を勝手氣儘に吐き散らして得々たるの狀あり、夫れ針は細きがゆへに能く刺す也、然れども能く刺すがゆへに其力量を宏大なりとするヿ能はず、彼の癖人物の批評は片寄れるがゆへに、能く一方に鋭どきヿを得、其の一方に鋭どきが故に、能く其一面を刺すヿを得、針の刺すは棒の擊つよりも感ふかく、蚊のさすは蚤の食ふよりも痛し、癖人物つねに批評して自から得意たるの狀、たとへば針と蚊との大言するに彷彿たり。教育學の大家皆な吾人に教ゆ、罰は自然にあらず、叱るとは發達さするヿに非ずと。蓋し、人を導びくの上乘は之を薰するにあり、其次は之を教ゆるにあり、之を叱り之を罰し、たゞ猛威を以て束縛壓制し、初めて一種の模型に似るヿあらしむるが如きは、教育の最下等なるもの也。犬を教ゆるすら打擊を以て之に迫るときは彼れ大ひに發達するヿなし、況してや多感多情の人類を育するに當り、たゞ之を責むるヿを以て常例と爲すは恰かも人の感情を殺すものに似たり、人の澤々として生ひ育たゝんと決して望む可らざる也。而して、義人

の務めは凡俗を敎へて之を義とするにあり、宗敎の務めは世俗を敎へて之を高くするにあり、社會改良家の務めは社會の醜惡を改良して之に善を敎へんとするにあり、彼等は皆な一種の敎師なり、小學校の敎師が單級八十人の幼童少女を敎ゆるとの如く、彼等は一鄕一國の同胞兄弟を敎育するもの也、左れば彼等亦た敎育學の要則に從はずんばある可らず。

敎育學の要則何をか彼等に要求する。彼若常にたゞ批評し而も自から德標道本を實際に顯はすとなく、他の欠點を容赦なく叱り疑らして自身の所行餘り見事ならず、終始たゞ人を責むるのみにして之を温たむるとなく、之を策うつのみにして之を薫するとなきに於ては、彼等果して能く其敎育を成遂し得べき乎。吾人の知れる敎師に、生徒に格外の暗誦を科して日々嚴びしく强迫したるものありき、彼は眞に能く暗誦の効能を辨じ、且つ實に强く之を其敎へ兒に要求したり、然れども彼自身は其暗誦の一部分をすら爲すと能わず、もし生徒に反問せらるゝ時に於ては、一事件も滿足に應答すると能はざりき。癖人物が世に敎へんとするの狀態亦之に似たり。

ブライト常に正々諤々の辨を振ふ、一善と云へども苟くも輕んぜず、一惡と云へども決して苟且にせず、談もし善惡の大問題に關はるの所ろに至れば、口角沫を飛ばし、眼こ爛々、敢て一歩も假さず。然れども彼は其親友に云へらく、余は決して爭ふとを好むものにあらず、成るべくは平和にして人と親しまんとを樂しむもの也と。實に然り、彼は元來平和の子なり、平和の子あるが故に、一世を攪動するも倘ほ大平和を維持せんとを欲する也、其の辨難批評豈に故らに爲すものならんや、實に止を得ざるに出る也。吾人は、たゞ故なく人を害し、不必要に人を怒らせ、何の大目的もなくして世を騷がすの人に、愛の人、平和の人、即はち完人物あるとを見ず。癖人物豈に完人物ならんや。

意氣地なき好人物もとより賴母しからず、然れども傲慢無禮にして我儘放埒なる癖人物亦もとより容す可らず。一は平地の泥濘の如し、足を載せて安んずるに足らず、他は淺草の富士山の如し、やゝ高しと云へども人造にして自然ならず、草を生じ、虫を吟ぜしめ、蝶を舞はしむるの沃味なきもの也。あゝ、今の善人と云ふものは所云る好人物なり、今の義人と云ふものは癖人物なり、癖人物正義を保護し、好人物善德を代表す、日本道德界豈憫然ならずや。夫れ何處にか、眞誠の完人物ある。

三

下宿屋

（下）其の改良策

栗子の殼を開付けて先づ涙こぼすものは、人の母親なり、孤子の貧しきを見付けて先づ着物きする者は子あるの妻なり、女性は、あわれなるもの、悲しきものを見聞すると男子よりも早し。　東京府下に於ける十万の書生が、古郷の父母を離れ、日多刪勉刻苦するのとき、之れを温たむるの母なく、之れを慰さむるの姉なく、否な之をして安住せしむるに足るの家すら無くして、夢には古里に迷ひ、朝たには山に鳴きつる鳥を思ひ、無味索々の砂漠境に漂流するの慘狀を見聞して、惻けあり、涙ある女性何ぞ之を何とも感じ玉はぬ乎。

書生は學問するもの也、學問するものは、之を慰さめ、之を勵まし、之を保護するとあらずんば、能く成就すると希なり。然るに今の書生がホームたる東京の下宿屋は、寧ろ之れを罪惡に陷落せしむるの魔界の如し。あゝたとひ之を導びくとあしと云へど、切めては之れを突き落すことなからんを欲す、假し之が爲めの美くしきホームなしとも、切めては之をして安んじて勉强せしむるとを得るの家あらんを要む、此は書生の爲めに切なる同情を保ちて願ふのみにあらず、日本一汎青年の風儀に影響する夥びたゞしと信じて、只管らに之を願ふもの也。

下宿屋の弊風は今更の事にあらず、吾人亦たくだくだしく言わじ。たゞ之を改たむるの策如何んと問ふべし。左れど、人の食物によりて金をもうける人は、もうける人の中の尤とも慘酷なる人なり、此人を更へて生れ替はらせんと、たとへば老たるもの〻更生しがたきが如し、今の商人の下宿屋をホームの如くにせんとは到底望み得べからざるの事なり。吾人は之を救ふの策として、たゞ三つの方法を有す、同感の姉妹もし稽つて之に當らば、日本青年の幸福抑そも如何斗りぞや。

第一は、志あらん婦人共同もしくは一個の管理によりて、ホームに似たる下宿屋を造り、此に容るゝ書生を能く撰びて其集まりを成るべく一家族の如くならせ、月々の入費を正しく割り付け、相當の屋賃及び臨時費を要め、其他は一切たゞ愛と信切とを以て之を保護するにあり、適宜の賄を置くとは勿論なりと云へど、之を取締り且つ氣着けするは、彼の有志の婦人よりして其婦人宛がら此集まりの母の如く姉の如くなりて之れを愛護するにあり、其方決して六かしきとにあらず、只だ

愛と信切とあるの婦人にして自から之に當らんとせば、かゝる下宿屋は今日の内にも出來上るべし、而して之に寄宿せんとする書生は明朝迄に群がり來るべし。

○第二は、嚴然かゝる下宿屋を造りがたき婦人にして、書生監督に志あるもの、其家々に一二人づゝの書生を置き之を家の子の如くに保護するの一策あり、西洋にては、外國よりの留學生を家族分として寄宿せしめ一切家の子と同樣にして愛育するの良家少なからず。日本より洋行したる書生中にもかゝる良家に寄宿したるもの至つて多きとあるが、其人歸朝后土產談の第一には、寄留中の感化學校に於て學びたる所ろよりも多く其味はひ忘る可らずと言ふもの多し、實に學科にも優りたるの德ありつると思はる。吾人は東京に留學する書生を寄留せしむると、たとへば此の西洋人の親切なるが如きの良家、府下にも亦多からんとを所望するもの也。

○第三は、暫時の下宿屋、或はむしろ二三時間のホームとも云ふべきものあり、志ある婦人專ぱら義捐慈善の精神を以て、程好き所ろに、クラブ。コッヒー店、の如きものを設け、新聞帋雜誌を備へ付け、更に好きは、ヲルガン、笛、玉つき、ブランコ、投玉の類を用意し、書生をして勝手に來り遊ばしむると是れ也。而して有志の婦人、かはるぐ此に出張し、三十人もしくは六十人の組合にて、一月に一度、乃至二月に一度ほどづゝ、終日此遊び塲を監督し、來遊する書生に談し、もしくは慰さめなどして、其の欝を散ぜしむるの工夫を爲すべし。扨て茶は無料にて振舞ひ、コッヒー、ラムチ、パンの類を殆んど元價ほどにて賣り、書生學文のいとまぐ、惡しき酒店茶樓なんどに登るの足を引とむべし。故にかゝる遊び塲は、特更ら牛肉店、もしくは酒や、茶やなどの向ひ面に設け置き、夕方書生散步するの頃ほひには、監督婦人わざとヲルガンを奏して、魔界に近づかんとする書生を誘ふなど、甚はだ美くしき心掛と云ふべし。斯く言ふを聞き、此は殆んど妄想なりと云ふものもあらんが眞や女性に慈善心なき間はいつ迄も妄想なるべし、苟くも發憤して此大慈善の仕事に當らんとするものあらば、女學校の生徒にして、唱歌を寄附する者もあるべし、西洋人にしてヲルガンを寄附するものもあるべし、同志の人にして月々若干の義捐金を出す人もあるべし、但だ人々の奮發心あく、之が主動となるものゝ最もぐ稀なるとを憂ふる耳。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

薙刀術（下）

青山衆司

五　薙刀術の概略

吾曹は前章に於て薙刀術の功用を論じ其大躰を辨明したり今更に歩を進めて其術は果して如何なるものなるかとの問題に移り、其起源沿革、其諸流の風、及び形の解説等の概略を記さんとす、

起源一班

其起源を尋ぬるに何れも上古の事にしあれば漠焉として正確たる事を得ず勿論古來より遺存せる由緒書等ありしと傳へけるが多くは灰燼に歸し今に存せず故に口碑等より抄畧して其が起源一斑を記する事とはなりぬ。薙刀は一名を鋳曲劔、偃月刀、眉尖刀、長劔等と稱す、口碑に傳ふ景行帝の御時日本武尊が駿州浮島原に於て燒討ち奉る夷族を迎へられ御劔を拔かせ給ひつ草を薙ぎられたるより起れり。其時御劔へ柄を續がれ其他の從者にも斯くせよと命ぜられ一同柄ある劍を以て危難を脱れ給ひし事より後世の人至極便利ある武器かなと思ひ遂に此形を用ゆる者出で來れりと。又一説に其もとは太刀なり柄を設けて作る故に長刀と書てナギナタと訓す太刀の屬あるを以て一振といふ云々。又或書に日本神代のむかし長刀と云ひし物見へず鋒を以て軍用となす後代片刃に作反を付て太刀を止むるの利を兼たりと。又舊遺考録に曰く、光仁帝異域の兵器に據て長刀を製らしむ寶龜十年東征の時其器を以て軍用とせり蓋し今の長刀此に起るならんと。

沿革一班

起源大概ぬ其説を異にせり何れも正しき判定を下すと叶はず然れども其起りの上古に在ると疑を容れず。降りて、前九年後三年の役の頃には餘程上達せる兵器となり人多く之を用ゆるに至れり。又少しく降りて平相國淸盛は長刀の利を賛美し一門皆な之を用ゆ此頃より全備一躰の兵器となれりと、舊遺考録などにも見へたり。

而して其隆盛を極め完全の一術となりたるは鎌倉時代なり。此より降り綿々として德川氏時代に至れり。其間は大概ね女子の使用する兵器とあれるが如し。德川氏天下を一統してより此術益々盛大となり女子にして此術を修めざる者殆んど稀なるに至れり。然れども其後劔道の盛んとなるや少しく其品位を降して或流は劔道の附屬術となれる者ありたり。德川氏

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

末代に及で女子の此術を講ずる者追々少なく女風一般惰弱に流れて其過半は之を全廢するに至たりしも、武士の婦妻たる者として此術に不案内なるは耻辱の至なりとの考は尙ほ腦裡に固着して離れず、武士の家には必ず之を飾り上流の乘物先へは必ず此武器を押立てたりき。然れども此術全く地を拂ひたるにあらで之を修業する者も尙ほ少なからざりき。こは武士のみにあらず時の町人にしても志ある者は之を修めたるものもありたり。されば術風の進歩も淺からず流名も數多ありけり其主なる者は、

靜貫流　富永流
志津流　靜流と言傳へたり）
戸田流　武甲流
穴澤流　正木流

等是れなり。

右の數流多くは試合を旨として形を其間に講ずるを常とせり（試合とは何れも武具を着して打合ひ、形は平常服にて講ず）然れども靜貫流、富永流、志津流等は專ら形を講じて試合をなさゞりき。形も其數一定せず少きは四五に止り多きは百以上に及び其巧拙も亦た千差万別なり。而して其巧拙を生じたる所以を考ふるに流義に依れば全く劍道の附屬術となりしものから男子の之を講ずる者多く或は獨立の術なりしも試合を主とするの所以よりして遂には荒々しき風を以て其形を錬磨し荒雄に相應しき氣合を作り一擊すれば長刀も粉微塵と成る斗りの仕こなしにて從つて長刀も其形狀を巨大ならしめ又隨つて其術は巧妙優美進退伸縮の自在といふ方には進歩せずして恐ろしき危うき方に進みたり。斯くして其狀拙なく見るに堪へざるの風を生ぜしものならんか。然れども又一流にては獨立の武術となりて專ら女子に適當するを旨としたるが爲め優美の有樣となり巧妙を極め從つて薙刀も輕便となり女子にして容易に振廻し得るものとなれり。左れど槪して之を見る時は古來より傳へたる荒々しき風は兎角人心に染り多くは第一の流義に偏するの傾向ありき。逐一其流名を擧げ難しと雖も巧妙なるものに於ては靜貫流、富永流、志津流を以て其最となす實に吾曹をして之を評せしめば就中靜貫流は剛ならぬは勿論柔にも流れぬ術流と云つて可なるか至極輕便なるは問ふに及ばず其流義特有の點に於ては增々吾曹をして感ぜしめ其が女子に對して周到欠くる所なきと賞賛するに堪たり吾曹をして此論を起さしめしも靜貫流々風の宜きを以てあり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文學思想の盛衰、ホームの影響(上)

靈峯生

人稍もすれば云ふ、古來文學者よく法律を學ぶ、蓋し法學と文學は多少深密の關係あるによるならんと、是誠に皮想の見のみ、法學は徒に文學思想を害するのみ、若彼文學者と呼ばるゝ者にして境遇に制せられ、生計の要に迫られ以て法學に幾多の歲月を費す事微りせば思ふに一層大學者となり、大傑作をなせしならん、眞に惜むべし、人若是を疑はゞ乞ふ左に記する所を見よ。人亦曰く閑境幽栖に世を逃れて文學の事に從ふは眞の文學者に非ず、煩雜紛亂の內にありて而てよく著作をなすをこそ誠の文學者となすべけれと、是亦誤れるの甚しきものゝみ、若之れを誤れりと云はずば乞ふ左に記する所を見よ。思ひ半ばに過ぎん、

文學思想と外物

著作は明鏡の如し、文學者の思想心情の反影するものなり、若作者にして外物の害を蒙り、他事の妨を受くる時は其心亂れ、靜思沈想する能はず、此時著作をなせば即ち欠點短所の現はれぬといふ事なし、或は秀才あり、博智あるの人と雖も容易に他事外物の妨害を蒙る事恰も音樂に用ゆる鉄器の如し其火中に溶解せる時に於ては風力にすら傷害せられ、音調を傷つくるに至る、

大著作の大欠點

名著大作と稱するものにして往々大欠點を存せるものあり、而して其原づく所は著者が其家內に於て文學思想に害を受けしによる、キヤモエン嘗て史詩を著せり、其欠點著るし、是彼の居所不定不快ありしが故なり。ミルトン明を失ふて其文氣頓挫せり、嘗て彼れサムソンアゴニストの不幸を察知し、同情もてサムソンの狀然を記して曰く「其敵に輕しめられ敵の囚虜となり、身は落魄し失明せり」と、

ロツクも嘆じて云へり

多端煩忙の務めに妨害せられ、其著作の中の材料前後整はず、欠點多き事を。ドライデンが粗雜の著を爲せし所以のもの全く其家事の狀態快からざりしが故のみ。ジヨンソン嘗てラムブラーを書き、改版する毎にいたく訂正を加へたり。ジツリーツス博學多識を以て知られたり、されどアブルフエダと題する書を公にせし時云つて曰く「五ケ年の間訴訟事件に係り、勉强を中廢せし所以によつて其著に於て大ひに誤謬あり、讀む人宜しく諒せよ、此著は嘗て訴訟の事起るに先だちて意匠

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を設け、着筆せり、今歸つて思へば大ひに不滿足を覺ゆ」と。ゴルドニー亦然り、暫く法廷に在つて著作を止めたり、而して法廷を退ひて再び筆を執れり久しく用ひざれば明鋭も曇りを生ず天賦の英才も遂に鈍りはてぬ、されば先に着筆せし院本は全く無益となりぬ、彼曰く「余が腦裏には訴訟の事のみ存す」と、訴訟事件、破產事件、家內の紛擾等によつて彼が想像の力減し、高尙の意匠を損し、天才を鈍くせり。ギドー賭博を好み、パルメヂアノー錬金術を嗜みぬ、何れも其著作に勉めざりしを以て文章の長短宜しきを得ざる所多し。カムパーランド嘗て「ウエストインディアン」と名くる戲曲を作りぬ、其境遇よかりしが故傑作なりき之を他のブラザーと題する戲曲に比するに雲壤啻ならず、其生活の狀態の著作に影響する事斯の如く夫れ甚し。

美術家メング

其父貧しき故家を賣つて獄となし、メングを奴隷となせり、是彼が長ぜる後まで惡習を脫せざりし所以なり。アロンソ、キヤノーはスペーンの人にして有名の畫工なり、最も閑靜を要する業なるに、紛雜せる事起りし爲め、遂に妙工を作す能はざりき。ヂヴ井ッドは流刑に遇ひ、殺風景の生活を爲せし爲め彼が殊有の想像力枯凋せり。

家內の幸不幸の及ぼす影響著るし

是を有名なる數學者ドクターブルックに於て見る、彼幼少の日より奇才を有し、種々の發見を數理に於てなしぬ、幼にして尙且然り、長ぜる後は必らず大發明をなすべしと人々希望を屬せり、思ひきや他日家內の煩悶に妨げられ、發明の才識全く跡を收むるに至らんとは、彼最愛の妻に二たびわかれぬ、憂愁悲哀措く能はず、爲めに深思大想するを得ざるに至れり、失望落膽の極嘗て好めりし數學の事も全たく打捨つるに至れり、彼れ一世末路の十又五年は希望なく、企圖なく暮せり。人其最愛の友に別れ、萬事手につかず、財を欲せず、名譽を慕はざるに至るは常に見る所なり、

ロッツーの文學

ロッツー妻を娶るに過てり、彼此に於て家內の幸福を知らず、常に憂憤に堪へざりき、彼れその不幸を感ずるの日より彼の文學上に於ける思想大變化を生し、快活的の文字は變じて憂鬱の著作となれり、末年彼が著はせし所ろは一として憂憤慷慨の情溢れざるはなし、是即はち彼の心事思想の反影せるものなり、怪むを須ひず。

敬宇中村先生を訪ふ

生野ふみ

中村敬宇先生といへば、儂が茲に御紹介申上る迄もなく誰とて其名を聞きて先生の徳を慕はぬものあるまじ左れど儂は特に先生が女子教育上に就ての御意見を伺ひ之れを世の諸兄姉達に報ぜばやと思ひたち去る十九日先生を小石川江戸川街の仝人社に訪ひ參らせぬ。先生の住居は門を入りて右手の方にありと仝人社の門監の指圖に隨ひ淸く掃除せられたる庭を夕暮方の涼風に送られながら二三十步進み行たるに疎密濃淡程能く茂り合ひ木立物ふりたる間に二階建の西洋館を認めぬ、是ぞ先生の御住居ならんとて覺へず步を速め猶能く其の近邊を覗ふに木々の梢に遮られて容易くは認め得ざりしが其背後の少し小高き處に幾間かありと覺しき閑雅なる日本風の建物ありて彼洋館と連續し居る樣なり、思ふに前者は客室又は應接所なんどにして後者は先生の書齋又は團欒の樂を採り玉ふ所ならんか。玄關に至り案内を乞はんとして不圖仰ぎ見れば入口の扉に(揮毫は謝絶す)と記したる一葉の紙片を粘付しあり面會を謝絶すてふ札あらざりしは先づ仕合なりとて徐に呼鈴を押したるに、應と答へて二十歲許の靑年出來られぬ。依て本社の巖本の添書と刺を差出して拜謁を乞ひたるに折ふし先生は數日來御所勞にて垂籠居玉ひしよしあれど折角に來りし事なればとて快く引見し玉ひぬ。

儂を引見し玉ひたる室は應接所にやあらん十二疊計りの室なるが中央に圓き大卓子を置き周圍に五六の安樂椅子を並べあり一個の大姿鏡は明きらかに室内の光景を寫して壁間に懸れり。

先生はもはや餘程の御年配と見ゆるが尋常よりは稍色白き方にて淡紅色を帶たる御顏に薄鼠色の眉鬚などの薄く柔らかに生ひたる狀洵に童顏仙骨とも評し參らすべきほど柔和なる御容貌にてありき。儂は此日路すがらも先生に伺ふべき條件の順序などを考へ彼を始に是を後になど思ひつゞけ居たりしが此時に至り先生に謁すると仝時に何故かいと稚びたる思想を生じ恰も幼時學校にありて己れが最も尊敬する敎師の傍に出たる時の如き心地せり。先生は儂が先生の高見を乞ひ問ふに先だち儂の鄕關修業の地などを懇に問ひ給ひぬ依て儂は其御答をなしたりしに次に先生は原書を讀むかと問ひ給ひぬ依て儂はありのまゝに否原書は未だ全く讀めぬと申程に候故に近頃よりぼつ〳〵と修業いたし候と申し上たるに先生は點頷き

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

あがらさやう夫れは至極宜しどうしても原書をお遣りなさい何しろ日本の學問は學ぶに容易けれ共洋學はどうしても出來る場合であくては出來ぬものなり故に今若し勉學の便宜あるならば他は措きても英學をするが宜しい而して又英書の中にでは一番新舊約書が善し彼は文法も正しく意味も高遠あり何どもはやく是を讀むやうにおなりなさいと。次に教法の事に就て僕より伺ひたるに先生の諭し玉ふやう教法には佛もあり儒もあれど其中にては基督教が一番に弊害がなきやうに思はる又基督教は人の心を安樂にするもの故基督教を信ずる婦人にして一家の主婦とならば自然其家も安樂になる譯なり故に女子の徳育には基督教が宜しかるべしとのたまいぬ。此他僕より現時の女子教育に對する高見女子修身の要

幷に徳育の方法、東洋婦人と西洋婦人との長短優劣、

東京女子師範學校改革の點、

などを伺ひ侍りしに夫々懇に示し給ひしかども最後に僕が今日の御高論を紙上に掲げて他の姉妹達に申傳へ候ても宜敷やと申上たるに其は少し見合せられたし、今日は時間も少し餘り何や角や一時になりし故充分の答も出來兼たり倚ほ篤と考へ置くべきほどに重ねて來られよ何時にても宅にさへ在らば面會すべしと諭し玉ひぬ。去ればまことに遺憾ある事なれども只今は其概略をだに申上むよしなし左はとて重ねて伺候する迄默せんも無下に惜しければ玆には只其先生の謦咳に接し玉はぬ兄姉達に其御風采の一斑をだに告げ参らせばやと兎に角に志るしおきつ願くは他日重ねて先生を訪ひ参らせて續きの記を掲ぐべければ餘り本意なきやうあれど是は只其冒頭とも見置給へかし。

新たに兒を擧たる人の感謝

もみぢ錄

天に在ます父よ、吾等に此幼き兒を與へ玉ひしことを謝す。此は吾等の子にあらず、アナタの御子なり、吾等之を保護するの重任を負へることを感謝す。其一生の善惡は吾等が憂ひ喜こびとなるよりも更に多くアナタの御心を動かすことを信じて恐ろしく感じます、願はくは吾等に深く其責任を覺へしめ玉へ。吾等がアナタの御子を呼びて己れのものと爲すは何如斗りの光榮ぞ、願はくは吾等が愛を嚴そかある潔きものとならしめ玉へ。吾等はアナタが何如ほどに吾等人類を愛し玉ふやを知らず、日々アナタの限りなき愛に面ひ乍ら幾層の無禮を重ねて冷やゝかなる理屈を申うせしか數へがたし、今まア

ナタは其御愛を此の幼な子によりて大ひに示めし玉ふとを感謝す、願はくは吾等をして此の御子の爲めに、道に適ひたる、献身の念を滿たさしめ玉へ。之によりてアナタの深き御愛クリストの切なる御惓けを受へて有がたく謝し奉まつる、願はくは永久、アナタの御心を忘るゝと莫らしめ玉へ。此幼な子に求め玉ふ天職はすでに定まり居るとを信ず、願はくは吾等をして其を妨ぐるとなからしめ玉へ。吾等は之を敬ゆるに足らず、たゞアナタの御感化を中ぞろに遮ぎるとなからしめ玉へ。アナタの御前には、われも、わが妻も、われらが子も皆な一樣なる幼な兒あり、願はくはアナタによれる一躰となりて、此恩みある天地を賛美せしめ玉へ。吾等が結び付きは死するも生くるも倘ほ永久に續くとを信じ、有がたく感謝す。今后何如なる災にあふも、何如なる僥倖にあふも、常にアナタの御前に共に歌はしめ玉へ。…………

磯邊のあした

うた子

濱邊にひとり　たゝずみて
いてゆく船を　うち見れば。
飛ゆくとりの　しらはねを
水かくもかに　うちかはす、
眞一もんじを　横にきり
みゆる限りを　うがちゆく、
煙はたかく　みづしろし
天地にくるま　をどりたつ、
さかまく波の　山くだけ
うづまく水の　谷うまる。
そらの鏡に　うつるらん
雲は天路を　こぎかよふ、
いそうつ浪は　ひそ／＼と
船のおどりを　つたへ來ぬ。
ゆく舟のかづ　かぎりなし
ゆくての望み　いとさま／＼。
かねもうけんと　荷を積みて
利益に重き　ふなわたり、
外國の地を　うばはんと
名利のやつこ　かしらだつ、
てきの軍艦　くだかんと
國をまもりの　いくさぶね、

みちを蠻野に　つたへんと
ゆく教へ人　載せたるも、
はなよめ送り　父母を
見舞ふ孝子の　くにがへり。
乗る人のしな　限りなし
ゆくもかへるも　舩さまざま。

人世觀

かすみ

人生の廣大なるは、世界の廣大なるよりも廣大なり。然るに世界の實際を知るには、所々を遍歴し、或は山に登り、或は谷に下り、或は海に帆かけ、或は陸に走り、而して到る處ろに人情風俗を悉はしく研究せずんばある可らず。左れば世界よりも一層廣ろくして且大きやかなる人生の實際を知らんとすは、なかなか一朝一夕の盡力にして事足るべきにあらず、惣じて其處ろに到り篤と之を目擊するにあらずんば得て覺悟しがたきものを多しとなす。十五の頃ほひには十五の年の高さ丈けに人世を見たり、三十にしては亦三十の齢の高さ丈けに人世を見るなり。喩へばいよいよ山高く登り見る所ろの景色漸次廣大なるが如し。初めに之のみと思ひつる事の后には更に押し廣がりて見ゆるもの也。父母の膝下に在りては世は情けのものと思ひける。學校に出でては世は理窟のものと思ひける。社會に出でては愕然其の冷やゝかなるに驚ろく、世は扨ても如此きものかと。左れど妻を得てより再たび愛と云へるものを知りぬ。子を擧けてより人世の眞理やゝその大綱を悟りたるの心地す。顧みれば千態万狀、われ乍ら意見の異なり行けるとを奇しむとは云へども、必竟是れ人世の風景つぎつぎに目に入りたるに因らずんばあらず。之を以て、人の世は常にたゞ或る局部に立ち或る高さの見識をもて見たるが如しと速了輕斷し去ると勿れ、谷に入るいよいよ深くして天いよいよ狹し、山に登るますます高くして地ますます廣ろし、眼前の景態すべて立脚立身の地何如に關す。

○預備なき人輕率の人

みどり

預算、準備、仕度、心搆へ、用意、などさまざまの名稱はありと云へど、約して之を「預備」と云ふべし。預備は實に生涯に切要なるものなり、預備なき人は常に心せかせかとして而も仕事其割に捗どらず、既に爲しつる業も其人の經驗とならず、之が人物を益すると多からざる也。たとへば既に足を踏み出して而して后ちに考へ付き、すでに話し出して而して

後ち其言ふ所ろを慮ばかるが如し。如此き人は、つねに前用意なくして仕事を引受くるが故に、いつも仕事の爲に苦しみ、殆んど忙殺せられんとして尙且つ其事を十分に遂る能はず、凡そ一生心一ぱいの盡力を果さずして卒々畢らんとす。

預備の覺悟は万事に大切なり、家政の上にも國政の上にも、其他何事の上にも均しく大切なり。滿引して發ち預備熟して而して後ち着手すれば、過まち少し、たとひ過まつとも恨みなくして且つ經驗を受ると多し。預備十分の人は、心沈着、心安舒、つねに優々として閑日月あり、切迫せずして熟考多く、人物自から高まり、人に長たるの德發達す、然からずしてたゞつねに奔走しいつも競馬が將に走り出てんとする時の如き心持にてある人は、到底人に使はるゝの人なり、機械と爲りて走まはるべき人也。蓋し役せらるゝと必ずしも惡きにはあらず、たゞ其の人物の質着謹嚴ならざるとを憂とす。預備なき人は、輕率あり、浮薄あり、敢て大に任ずべき資格を有せず。

消夏錄（其七）

雲峯生

○風雨蕭々たり

連日の雲雨漸やく晴れんとす、庵立出てて樹間を望めば、東天に蒼空見ゆ、兼て約あり、今日晴天に乘じて八景の勝を金澤に探らんとす、道を横須賀に取る、滊車未だ此處に達せず、東窓より望めば黑雲油然空に充ちぬ、横須賀に着す、降雨頗る強し、數丁を步して舟出し、金澤に向ふ、未だ數刻ならず、大雨注ぐに似たり、風さへふきすさび、縱横にふりかゝる雨如何ともする能はず、總身全衣打しめり、さながら水中にあるが如し、されど山海雨中の景亦一望あり海水漸く細くなり、兩岸の山次第に相寄る、更に十數丁を漕ぎゆく、江水淺くなり、扁舟止る所、岸上に數家あり、是なん金澤の勝地、着する時雨既に止みぬ。

○八景一眸にあり

天を望めば黑白の雲斷亦續、晴れんとするに似たり、逆旅を出てゝ金龍山に昇る此山は是小丘のみ、迂曲せる坂路數百步を行けば頂巓に達す、松間に一小亭あり、此に座して八景を望む、余先年江州に遊び、所謂八景なるものをながめき、眞に天然の美景稱するに堪へたり、今や金澤にものして亦八景なるものを見る、彼是其美雲壤にして固より時を同ふして云ふ能はず、其全景甚だ狹小にして且つ天然の風致大ひに劣るされど亦、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○一勝の地と云ふべし

須臾にして一天雲散じ、全望明かなり、灣水長く侵入して江をなす、之を内川と呼ぶ、是暮雪の景を云ふ所也、江水少しく廣くなる所小丘あり、今は陸地に連續す、昔し小島なりしとぞ、野島と云ひ、夕照明滅の景最もよし、是亦八景の一なり、

くもかゝる野島の松にさしのこる夕日涼しくありにけるかな

野島の右に打つゞく松原、木の間に海水見ゆ、江戸灣ありとぞ、蒼空滄波盡くるほとり、孤帆一片風に順つて歸る、是自然の景、八勝中の最秀最佳と云ふべし、時に案内せる白眉の老僧數卷の冊子を出し、此にものせる人雅思風想を筆に托して書きのこすものなりと告ぐ、余もと風雅の人ならず、されど書く事なく歸らんも口惜しければかくかきつく

雨はれしおそもの松の木の間より沖の白帆のかへりくる見ゆ

八景を一首に盡さまくせしが得ず、洲崎の晴嵐も見ぬ、雨過し後なればなり、平潟とは内川水淺き所、落雁は見えず、小泉の夜の雨、ふる時ならでは見るよしなし、稱名寺の入相の鐘ほのかに聞しのみ、尚一景殘るは瀨戸の秋の月とす、

○九覽亭とは如何

八景一眸にあるの亭名を九覽亭と呼ぶ、其故を問へば曰く、江口に二島あり、烏帽子と云ひ、夏島と云ふ、此景を合せ見るが故なりと、東南海水を隔て遠く房總の山を望む、是亦一種の絶景なり、余が師此處にものし玉へり

こゝのつのけしきの外に見ゆる成かづさの高ねあはの遠山

弟子は師に勝らずとはもとより格語なり、

○山影水中にあり、明月東天にかゝる、

金澤に勝を求むるや、實に瀨戸の秋月を見るは最も望む所なり、今宵陰曆十又九日、日落ち、數刻を經て、東天明かなり暫くして月出づ、此處に於て、舟を江水に浮べ、瀨戸に遊ぶ、月漸く高く、野島の斜影水中に映ず、波靜かに、風淸く、江水々光明かにして鏡の如し、此夜此境にあり、誰れか蘇子赤壁の壯遊を思はざらんや、「浩々乎として虛に憑り、風に御して其止る所を知らざるが如く、飄々乎として世を遺て獨立羽化して登仙するが如し」と歌ひけるは斯る時をや云ひたりけむ、坐ろに昔忍ばる、扁舟の行くに任せて江中を上下す、或は詩を高吟し、或は歌を放詠し、興轉た止む時なし、江上燈火滅盡する頃、舟を歸して寢につく、一首あり、附記す、

かぢ枕ふけ行夜半に香ふなりせとの入江の秋のよの月

此地晨朝の景亦可なり、畧して記せず(大尾)。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女子一生中最幸最福の時期

碓氷山人

米國の某新聞一問題を掲げて偏ねく世の女子の答へを募りぬ、其問に曰く「女子一生中最幸最福の時期は何時ぞや」と、是に二三の答へしものあり、此に略譯す。

シャンドラー、モルトン夫人の答

婦人にして最愛の良人を得ずば思ふに眞正の幸福をば知るまじ、妾の考ふる所によれば其良人に伴ふ時を以て最も幸福なる時となす、人或は閑園に靜居し、芳草美花の内に樂しき日を送り得べし、亦或は不幸にしてよからぬ人と結婚せし人嘆じて云はん、寧ろ嫁せざりし方幸ひなりしならんと、されど斯る人は未だ眞正の幸福の何たるを解せぬものと云ふべし、思ふに妾の思想は古るめかしかるべし、されど妾は如何にしても眞正の幸福は女子が最愛の良人と左提右携して樂しき月日を送る時にありと云ふの外考ふる能はず。

チリー、クック夫人の答

妾所謂らく女子最も幸福の時期は世を終へたる後にあり、若し一生に於て務むべき事をはたさず、爲すべき事を終へざりせば後悔止まざらん、空しき愛心も、變り易き友情も心を慰めまじ、生末に於て滿足せざるが故に憂哀悲嘆鬱乎たらん、されど悔ゆる時終へ、悲む日盡き、うき世のなやみ止み、榮光ある地に至り、信仰せる所に行き、希望を全ふする世あるべし、是をこれ最幸最福の時とこそ云ふべけれ。

ホイットニー夫人の答

妾未だ幸福の時に遇はず、妾の信ずる所は何人も希望を抱く時最も幸福あるべし、是より一生涯を送り、辛酸を嘗め盡して後始めて其時を悟るべし、若し後日再び問ふあらば答へん。

フランセス、ウヰラード孃の答

妾の經驗せる所によれば最も幸福の時期は己を忘るゝ時にあり、即ち利己の念全く消滅して、聖潔の思想を抱き、清淨の企圖をなす時にあり、妾が所謂聖潔清淨の思想企圖とは自ら樂み、怠る事なく、善き事業に身を投ずる事なり。

きよめぬ庭

其二十五　洒落齋主人

助言

助言と云ふこと、いることありいらぬことあり、されば此れいるときの助言は、幾萬鈞の價値ある可くれども、いらぬときに助言うくるほど、やくなきことはあらじ。いな、やくなきのみあらで、事をあやまることも多し、されど助言せん人の、

其言ことゞしく他人の爲利益あらんとて、するもののみにもあらじ。或は敵の人にあてられ、もとめて之をなし、或はなほ深くあてられたる人の如きは、其辭のまことに友の、爲なる可しとの心より、するものもある可し。助言きく方にても亦た、さま〴〵の意ある可し。彼の友はよくぞ常に助言なしくるゝ人よ、實にたのもしき人よ、彼の事につきても、彼の人の助言きゝ入れたる爲、安らかにすみたりとて悦ぶ者いと稀なり。

諫言すると云ふこともまた然り、臣等の諫を入るゝものある間は、其國亡びずと、古の聖人も云へり。さるに眞心より出たることも諫言とし云へば耳に逆ひ、良藥は口に苦し。比干が三日の諫きかずして、聖人の心に七竅ありとて、剖いて其心を見し紂王は、寳玉を衣て牧野に焚死し。國中に敢へて諫る者は、死せしめんとまで令したる、楚の莊王は、伍擧蘇從の諫を容れ、之に國の政事を委ねて、諸侯の覇となる。一は諫むる人を殺して其國亡び。一は諫る人を擧げて其國興る、豈鑒みざる可けんや。

洋の東にあたりて一の帝國あり、近き頃切りに開明に赴き、國民も亦た慕く可き步を爲したるものから、今よりは廿年あまり三十年の昔なしたる、外國と結びたる條約の、いとそゞろなりしを改めんとて、時の外務にあたりし大臣、夙に起き夜に臥ね、此が改正に力を盡されける。さるにいかなる事由ありしかわなみは知らず、國の中に兩派の組あらはれ、かの如く改むるほどならんには、之を改めぬかたよしとか。或は今のありさまにては、此の上の條件まで改めんことを覺束なし先きに申出たるまゝにても、改めおかんには、改めざるに勝れりとか、いたく助言を爲す人の多かりし爲めなりしやいなやはしらざれど、國の中いたくさわがしくなりもて行き、終には精神の狂ひし者さへ出來て、時の外務の大臣は、ダイナマイトとか云へる、いまわしき彈にうたれて、片方の足そこねられ、それかれ彼の改正の事どもも止められぬ。

近き頃も亦た、條約改正のうわさ、切りに世にあらはれ、就きてはまた、國人は云ふも更なり、港開きし昔より、我が日本國の御かげ蒙りて、腹を肥せし外國人等までが、かにかくと爭ひわめくもおかし。ことに腹の中に深きたくみのありて、事さらにさわがしきさまなす、イギリスとか云へる國人の爲にわざむかれ、つけ景氣とか云ふやうなること、なす人のあるもおかし。わが國人もはや、先の年助言なしすぎたるさまは、よくもしりつらむに、再度とかゝるあとはふむまじ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ある所に人々のより集ひたることありて、碁圍むあそびをなん始めける。こゝにきはめて助言いひたがる者ありけり、他人のうちつゞけたる碁の手に、一石ごとにきれよおさえよと、云ふ、うち手ども困りはて、さやうに助言云はるゝこと、甚く迷惑あれば、かまへて助言し給ふなと云ふ、よしよしと返事なしたれど、またまた助言なして、少しも云ひやまず。うち手どもことごとく怒りて、おんみこゝにありて碁見るほどに、助言云ひたきなり、とかく家に歸らる可しと云ふに、彼の者わがみもさ思ふほどに、歸らんと云ひて出行きぬ。一町餘りも來かゝりし頃なり、向より一人の友なん來りける。此も碁かこむ敵手なりけるが、互にいやをなし、彼の者おんみは何方へ行き給ふやと問ふ、敵手きゝて、上町の碁けん物に參らんとて來りぬと云ふ、彼の者わがみも今のかたまで見居たるが、餘りにまだるきこゝちせしまゝ、今より歸らんとて出來りしなるが、おんみかしこに行かせ給はゞ、卒爾ながら願ひ度き事あり、

之れまだ角にきつてとる手が、白のかたにある。

いまに氣にかゝる、かならず忘れ給ふなとて、傳言をさゝなしたりとなん。

小說

小公子　第三回（上）　若松しづ子

其日ハブシヤム氏は彼の走り競の大闘と稍暫く話をしてゐる其間幾度か吝しそうな笑を傾けながら骨つぽい手であごを撫てるとが有升た。折しもエロル夫人は處用あつて暫時座敷を離れ跡は代言人とセドリツク丈でしたが、始にハ氏は何を云わふかと思案いたし升た。何れ祖父なる老侯と對面する心構もさせねばならず、又セドリツクの身分にとつて大變革のとも心付させて置ねばなるまいと思ひ升たが、セドリツクはまだ若英の後どの樣な物事に接するものか又どふいふ家に迎へられるかといふとも一向夢中でゐた樣子でした。自分の母が自分と同じ家に住わぬのだといふとさへまだ知らずにゐたのでした。是は驚かせるとが餘り多いので、先段々にいふて聞せる方が好いとはたで注意したからのとでした。此時ハ氏は開た窓の方の安樂椅子に倚つて居り升たが、是と對して向ふにも一つそれより大きな安樂椅子の有つたのにセドリツクは座を占て、ハ氏を見て居り升た。此大椅子に深くチヨンボリ腰を据へ、ちゞれ頭を布團の着た椅子の背へ寄せ掛け、脛を

叉の字にして、兩手をポッケクトの中へズット突込んだ樣子はよくもホップスに擬して居り升た。母が座敷に居る間から、ハ氏に頻りに眼を注いで居り升たが、母の席を立つた跡も矢張り、仔細有氣に其顏を見詰めて居り升た。エロル夫人が外へ行かれた後は暫く談話が途絶へ升て、セドリックはハ氏の樣子を伺ひ、ハ氏は又セドリックの樣子を考へて居りました。ハ氏は自分の如き老成人が、走り競に勝つたり、又椅子に深入りもすれば足先が下へ屆かない位の脛へ短かい膝切ヅボンと赤の靴足袋を穿く年恰好の子供に、何を云つて好いものか、一寸思付ませんかつた。然るにセドリックの方から急に話をしかけられ、漸くホットしました。

おぢさん、僕は侯爵といふものはどんなものだか知らないんですが、おぢさんそれを知つてゐ升たか？

サヤウか？

とハ氏に云れて、

ゑー、知らないんです、ですが、僕の樣に侯爵になる人は知つてなくつちやいけませんのか？どふでせう？

左樣さ、マアそんなものでせう。

とハ氏が答へ升た。セデーはいんぎんに、

おぢさん、僕にセイメイして下さいな、(折々長い言葉を遣ふ時は少し誤ると有り)全躰誰に侯爵にされるんです？

ハ氏は此問に對して、

最初は王とか女王とかゞ其侯爵を授け玉ふので、大抵は何か主君に對して勳功が有つたとか、大事業を起したとかの爲に侯爵に擧げられるのです。

と答へましたら

アヽ、そうですか？そんなら大統領も同じものですね？

とセドリックが申し升た。

左樣か？お國の大統領の撰擧されるのは全く左樣な譯ですか？

エイ、大變な好い人で、色々なことを知つて居れば大統領に撰ばれるんです。それから松火で行列をしたり樂隊が出たり、皆んなが演舌をしたりするんです。僕も先にはヒヨットスルト大統領になるかも知れないと思ていましたがね、侯爵ナンカにあるナンテ知らなかつたんです。(此時侯爵になり度あかつたのだと思はせて、ハ氏の氣を損じてはと心配して言葉忙しくいひ替て)アノ僕だつて侯爵といふもの知つてたら、なりたかつたかも知れませんよ、ダケド知らなかつたからね。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

といひ升た。

それは大統領にあつたとは少し譯が違ひ升。

とハ氏が說明いたし升た。

そうですか？ソンナラどんなに違うんです？松明の行列なんかないんですか？

ハ氏は今度は自分の脛を叉の字……右の手の指先を左の手の指先へ一本ヅヽ順にゆる〳〵と合せ升て、さて此子供に委細の事譯を云聞せる時期が來たと思ひ、先づ說出してこふ云升た。

第一、侯爵といふものは大した人物です。

と聞ゐて、セヂーは話の鋒先を突込んで、

大統領もそうなんですよ、松明の行列は二里も續くんです、そうして花火を揚たり、樂隊が、、、なつたりするんです、ホツプスおぢさんが連れてつて見せて呉たんです。

ハ氏は說明の腰を折られて、少し手持不沙汰に感じつゝ、

侯爵といへば大抵は極く舊い門閥なんです。

と跡をつゞけ升た。

エー、それは何のとてです？

とセヂーが問升た。

大層舊い家がらのとです、甚だ舊いのです。

と聞いて、セヂーは兩手を倘深くポッケットの中へ突込みながら、

アヽそう、そんならアノ公園の側の林檎屋のお婆さんとおなじとですナ、あの人はキットその舊いもん……もんばつでせう。ダッテどふも年をとつて〳〵どふして歩けるかと思ふ樣です、キットモウ百位いでせう。ですけれど雨が降る時でもヤッパリ彼處へ出てゐるんです。僕は大變可愛そうだと思ふんです、そうして僕の友だちも氣の毒がるんです、先にチ、ビレイが一圓ほど金を持つてましたから、僕がチ、其お金がみんなになるまで毎日五錢づゝ林檎を買つて遣り玉へつて云つたんです。そうすると廿日になるんです、デスケド、一週間たつとビレが林檎が厭つちまつたんです。それでもその時は大變好い鹽梅でチ、僕が丁度余處のおぢさんに五十錢貰つてチ、其代りに僕が買つたんです、だれだつてあんなに貧乏で、舊いもん……もんばつの人は可愛そうですはチ、其おばあさんのもんばつなんかは骨の中に這入つちまつたんだそうで、雨が降れば倘わるくなるんです。

こゝに及んでハ氏は對坐してゐる合手のあどけない、まぢめ顔を眺めても、又手持不沙汰で、暫く言葉を續ませんかつた。

あなたは此老人の云ふとがよく分らなかつたのでせう。舊い門閥といへば、年をとつたといふとではないのです。舊い門閥といへば、其家の名が昔から世の人に知られてゐるのです。大抵何百年といふほど其名が人に知られ、國の歴史に乘つてゐるもの、とです。

それじや、ワシントンの樣あんですな、僕なんか生れた時から聞て知つてゐ升。そうして其前も先ッから人が知つてるんです。ホップスおぢさんがいつになつても人が忘れやしあいつて云いました。それはアノ獨立宣告や何かのせいです、それから七月四日の祭りもあります、大變エライ人あんですもの。

抑第一世ドリンコート侯爵は四百年の昔しに位爵を授けられたお人です。

ハ氏は嚴格に又說き始めました。

オヤ／＼それは大變な昔しのとですね。おぢさんそれを僕のかあさんに話し升たか？キット面白がり升よ。ダッチ珍敷もの聞くのが大好ですもの。今にこつちへ來たら、二人で話して聞せませう。侯爵は授けられてから、それからどふするんです。

其中で英國の政事をとつたものも多くあり升。又は豪傑で、昔しの大戰爭に出たのも有升。

僕もそふいふとがして見度んです。僕のとうさんは戰人だつたんです。そうして大變な豪傑だつたんです。ワシントン見た樣な豪傑なんでした。ダカラ、死なゝければ侯爵にあつたのかも知れませんね、僕は侯爵が豪傑なら大變嬉しひんです。豪傑では大層な利イキです。僕は先はね、こわがつたんです。暗い處なんかね……ダケレド革命の時の戰のとや、ワシントンのとなんか考へたら、モウ直つちまつたんです。

ハ氏は例のゆる／＼した調子で、妙な顔附をして、鋭い眼をセディに注ぎながら。

侯爵にあればまだ他に利益が有り升。侯爵は大抵は大金持です。

と云つて、此童兒が金の勢力といふものを知つて居るか居らぬかと、眼を欹だて、樣子を伺ひみたのを、セドリックは何氣なく、

お金が有れば大變好ものですネ、僕もお金が澤山ある方が好です。

左樣か？それは又何故です？

－ハ氏は態と問ひ升た。

ダッテ金が有れば色〳〵なことが出來升もの、あの林檎やのおばあさんに、僕が金が有ればあの露店を入れる天幕と火鉢を買つてやり、そうして雨が降る日には毎でも一圓ッ、遣り升ワ、そうすれば店を出さずと家にゐられ升もの、オットそれから……アノ腰掛一ッ遣り升ワ、それがありさへすれば、骨がそんなに痛くはないんです。アノネあのお婆アさんの骨は僕たちのとは違つて、動けば痛いんですからネ、骨がそんなにいたければ大變困るでせう、あなたや僕たちだつて。僕がお金が有つて、それ丈みんなして遣れば骨がよくなるか知らんと思ふんです。

－ハ氏は、

エヘン（と咳嗽し）、それからお金が有ればまだ何をする積りです？

と問ひました。

寄書

○女學雜誌記者に質す

女學記者足下足下が恒に高潔なる理想を持し堅確不撓精意禁する能はざるの誠心を以て現今我邦々家の民族神を畏れず人たるの義務を盡さず逐日倍々背德に深入せんとする趨向あるを歎じ日夜孜々不忘淫靡腐情の大氣に濁々たる社會現狀を排滅し以て驟雨後の天、地上の樂園を作らんと鋭意汲々勤勞せられ殊に後進の妹をして社會の實情を知らしめ家政上經濟上文學上政治上其他諸般の術學漏るゝなく教導し永く妨塞せられし妹を天賦の資性を愈らず啓發伸暢せしめんとて恒に記者全幅の能力を妹らの爲めに犧牲として誘曳し玉ふを誠に流涕の感謝を以てするも猶堪へざる處なり。

噫敬愛する女學記者よ妹は自らの不敏をも不顧敢て記者の聰敏なる心裡に訴へ高教を乞わんとす記者足下目今我邦社會の現狀を熟視せば「記者も常に痛歎し給ふ如く」一髮千斤を以てするも容易に高尚の道德を實際に維持するの困難なるは妹の敢て怪しまざる處なり故に妹は現今我國大小の女學校に於ても其れ々汚穢の從害なからん爲めに周到なる良案良法を施て嚴密に其の女生を保護せらるゝあるは實に策の得たるものにて誠に當然のことゝ信ずるなり然れとも妹は恐るゝなり噫大に畏るゝなり。

當今歐米の自由道德主義を基（キリスト教）として建設せられたるしかも彼れ自由の主張者たる米人の校長を以て組織せられたる西の方海濱に雄飛する某校に於て彼妹等同胞の良心自由を壓抑し妹等既有の權利をも奪ひつゝあらんとは噫彼らは此かる方便を最善の良法として行ひつゝあるものなる乎妹は決してしか信ずる能はざるなり彼ら如何なる方法を施すも必ず其目的とするものは（女學雜誌第二百廿四號女子教育の私見を述べて巖本兄に寄するの寺尾先生の）洵に惡むべき猶疾なく無病健全にして生氣溢れ學一般の事に及び感情濃かに哀憐深く理想潔くして氣節高く家を修めて秩序あり兒を鞠つて惻篤なる女子を成育するの主意ならん斯る目的は井蛙の妹も最も跳躍賛辭を憚からざる所なれとも之を成すの手段にして若しも妹ら天興の自由を隱し將來國家の慈母たるに肝要なる德義權利を傷害し良心なして界風に陷らしめ妹ら有爲の同胞をして女性の運命はかゝるもの也と感ぜしむるに於ては瞬時も安想し能わざるなり。

然らば某校は如何なる方法を以て如何なる點を壓しつゝあるやを明にせざるべからず妹は事件の表裏を探視せずしてむやみ矢鱈に欠點を暴露するを好む者にあらず彼の校必ず最大に（他に比し）超秀せるとあるは妹の親しく觀て疑がはざる處なれども良惡優劣の伴ふを免れざるもの歟某校は、

○宗敎に就き　實に知識の一端に傾き敢て專ら全胞の愛德を維持するを勤めざるが如し如何となれば此の眞心自由を有するものをして機械を使用するが如く好不好は尋ぬるに遑あらずして强て宗敎の儀式に從がわしむるか如き例せば好まざる不信者をしてつとめて祈りを習わしめ亦其の主會を勸めしめ甚しきに至りては當番なりと云ひて感ぜざる者をして感辭を話さしむる如き之れ其一なり。

○來狀に就き　某校職員諸氏は實に之れ如何なる眞心を有する者なる乎他より在校生へ宛てたる來狀に就きては更に姝ら同胞の自由を侵すと甚し親しく文書に接すると二三回に及べば(女姓よりに非ず)職員は必ず男子諸氏と殊に靑年の男子と繁き交通は可成避けよと忠告をなすは姝の尤も嘉みす處亦其事に注意するは必ず其師の勸むべき任なりと信ずる處なり。

然れども種々猜疑の念を搆へ潛に誹笑を加へ甚しきに至りては其人の承諾を得ずして猥に其來狀の封緘を解き加之其人に屆渡せずして其儘沒收隱蔽するか如きと往々あるは姝が慥に驗知せし處なり　(他畧す)。

噫噫姝は信ず强迫以て神を禮拜せしむるか如きとは少しの益を得るなき而已ならず淺からざる害を胎すとあるを。

トルトリヤン曰く人を强て上帝に事へしめんとするは正理にあらず上帝は此の如き壓抑より生ずる僞善の崇敬を好みし給ふ者にあらずと。

アサナシヤス曰く强迫の從順は上帝の忌み玉ふ處之と來信誹笑するはさて置き漫開沒收するとに就きては姝亦僅かにも斯ると あるを恕す能わず若し種々の疑惑存情の來狀と認むる時は差出人に返送するも尙可ならん亦他に處するの良策もあらん然るに玆に出ずして送りし人の意を明にせず受信人の承知をも求めずして涙に斯る不德の所爲をなさんとはア丶。

某校職員諸氏よ卿等は如何なる良心を持し給ふ乎如何なる愛德を以て其女生徒を感ぜしめんとせらるゝ乎姝其理由を知らんとを願ふ。

噫姝は此二點に就き深く恐れ亦懼るゝなり卿等外國人は我邦の法典不完全故に不安心服しがたしと姝は憚からず恐れずして吐言するを得るなり卿等外國人何事をか曰ふや活眼以て我邦の大法典を熟覽せられよ卿らの不安心なりと曰ふ我邦の憲法第廿六條の規定に

日本臣民は法律に定めたる塲合を除く外信書の秘密を侵さるゝことなしと、大書せるにあらずや(法律に定め云々とは卿らの定めたる校則にはあらぬ之)而して仝七十六條に

何らの名稱を用ゆるに拘つらず此憲法に矛盾するものは其効を有せずと。

先進の卿等よ職員等よ姝らの敬愛以て謹迎する姝ら仝胞を敎訓する某校よ願は能く顧みて日本將來の慈母たるべき姝ら女性を遇せられよ。

噫噫姝らを保護し玉ふ敎導者たる姝らの敬愛する記者よ姝等女性は累世壓制主義の家庭敎育に於て稟資の美德天賦の自由を蹂躙せられ今復斯る文明の礎上に建てられたる學校に於て其自由を剝奪せらるゝあらんとは噫…………長恨悲歎に堪へざるなり。

姝は右二ヶ條に就き想考熟思を廻らすも其理の存する處を探知する能はざるなり希は姝ら同胞の衷情に愍察を垂られよ懇切なる敎誨を吝しみ玉ふ勿れ頓首。

九月十八日　　　　在上毛　綠村女史

巖本先生
御机下

尙々姝の衷情御愍み被下前文宜敷御添削を加へられ貴社雜誌余白へ御掲載被下世に此事を訴ふるあらば姝の幸福之に過ぎざるなり。

右の一篇文章もしくは當見の必らずしも採るべきものあるに非ず、只だ其訴ふる所ろの何如にも沈痛慷慨なるにより掲載す、故を以て其末文の請ひあるに關せず一字一句を增減せず。事實もし如此き弊害ありとせば、吾人も亦ともに其一日も早く除去されんとを望む。

聞書

○天地神學說

嘗て交詢樅にてプリマウス、ブレゾレンも頗る面白き說を唱ふる可憐なる一派の如く曰はれたれば御敎示に從ひ一通りは其說を聞きたれども荒唐無稽の敎義を唱ふるのみならず學術及び他の敎會を目して惡魔の工となしこれを罵詈誹謗する等一として感服すべき事なし斯かる宗派に對して寬大に過ぎたる評を下すは如何はしからずや又た前々號の時事欄に天地神學說と題しベーリン氏の代表するユニヤルサリズム　凡神論の一種なりと評されたれども氏は宇宙神敎とは何ぞやと題する小冊子の十頁に於てユニテルサリズムは具心の神(パーソナール、ゴード)を信ずる一神敎(セイズム)にして神無しとする無神論及び萬物卽神を主張する万有神敎(パンセイズム)を排斥する事を明言せり若し universalism なる語を universum なる名詞より導き來りて宇宙神敎天地神學說等の譯を下しなば凡神論と同一類なるやの惑を起すべけれど實は universal なる形容詞より導きて普及主義とか普凡論とか飜譯するか若しくは普救主義とか普恩論とか意譯すべきものなりと思はる蓋は神恩は普く衆生を救濟するを說くものなればなり六合雜誌はユニテリアニズムが佛敎と合同するやに論じ女學雜誌はユニヴルサリズムを凡神論の一種なりと評す彼は宗派主義(コンフエショナリズム)の臭氣あり之れは無頓着(インヂッフエレンチズム)主義の傾向ありて孰づれも二派の眞意を穿ちたるものと認め難き心地す非乎聊か

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

記者の一考を煩はし併せて其教示を乞ふ

九月二十日　　本郷西片町五番地
柳溪樵夫

編者答ふ、吾人は彼の宇宙神教に付きて述べたるにはあらで、現時普通文學者の意見に付きて觀察したるもの也、近ごろ、嵯峨の屋、湖處子、露伴、諸氏の草したる文章を讀みて感じたるもの耳、他の大意見ありしには非ず。

○麻布呉服屋小僧氏に謝す

貴君剛快の御忠告有がたく謝す、但し生は常に確信する所ろを斷言し、又斷言する所ろを實行し居るものゆへ、何分自から非と覺解する迄は之を改めがたく候。更に許々の教を賜ふするを得ば幸いなり。(巖本生記)。

文論　　みれ子

●賤の女　植物通解は五十五錢、士都華氏物理學は二圓位、工場用具論は三十九錢、講義錄講指要はよく知りません、講義筆記は二十錢位、なりとの事です、終りの二冊は、和洋の賣る所には何處にもありましよふ、他は丸善にあると申します、

●白石氏　英雄桃太郎、花咲翁、俵藤太物語、浦島、八頭の大蛇等皆丸善にあります、代價は八十錢のものと十二錢のものとあります、冊子の大小にて異るのでしよふ

●住吉松子の君　に答へます、詩と文章を教へる所が居町邊にないかとの御たづね、私も氣を留て見ませんから斯る所があるかなきかよく存じません、而し漢學者の所に行き給はば何處にても教へましよふ、尚探求して教ふる人の住所も姓名も申上る事と致しましよふ○つぼみと云ふ雜誌は大坂西區土佐堀三丁目卅八番地福音社内女文會より毎月一回第三土曜日に發兌します、禁賣品なれば定價と云ふものはありません、而し求め度き方は會友となり毎月會費五錢を拂ひ込めば雜誌を送附するとの事です

●近眼女　近眼のますく近くなるのを止めるのは如何なる名醫にもできぬ事と聞きました、只滴度の眼鏡をかけ、視力を成るべく用ゐぬ樣にせば近くなる所緩かあるよし、之れを療治する方法はありますが中々急には治りますまい、航海でもすれば遠くをのみ見る樣務むる故近眼次第に治ると云ひますが實際如何か存じません、兎に角近き所や微細のものを見ぬ樣にするのが最も宜しひのでしよふ、精しひ事は此處に御問ひなさるよりか何處かの名醫に御たづねになる方宜からんと思ひます、私は此事はよく存じませんから、

時事

○條約改正

條約の文言を改正せんとて、之にのみ骨を折るは餘り高尚なる事にもあらず。左れど亦是れ國家に大切の問題なれば、志士が熱心容喙するは殊勝と云ふべし。但だ其見識の何如にも公平にして、而も運動ぃ優美着實ならんとを希望す。家内にて喧嘩する者も人の前にては愼しむもの也、況んや國と國との關係に於て、分もなく騷ぎ立つは餘り見事なる風景よは非ざる也。

○之が爲めの祈禱會

吾社の巖本は津田仙翁と共に發起し、左の誘引書を同志者よ郵送したり、

謹啓在横濱外國人中對等條約案に關して不穩當の運動仕候より民心大に激昂し青年壯士中不容易の企も有之やの趣双方互に激して彌々誤解を增し此切要問題に對して公平正明の見を失ふに至ては慨歎の極と存候就ては來廿六七八の三日午后二時より横濱海岸教會堂に於て有志者大祈禱會を開き外人をして公明正大ならしめ邦民をして過激偏憤せしめざる樣天助を祈り且つ基督教徒の清き願望を内外に吐告致度候席上諸先輩の感話あり又英國女皇陛下へ對する陳述書に付て意見吐露致者も可有之必竟目下大切要の事件と信じ生等敢て發起仕り諸兄姉の來會を只管切に懇望致居候也。

○時事翁

此際翁が說法亦例の如く妙なり、

我輩は横濱の居留人中に行はるゝ非條約改正論を一概に擯斥し罵詈し去らんとする者に非ず三十餘年來身に慣れたる舊慣に戀々するは人情に尤もなりとして大に之を恕し唯世界の大勢に訴へて其心事の一轉を祈り到底維持す可らざる治外法權の鐵岡稲城ならば斷じて思切る可し、一小部分の人が團結しても一二の新聞紙が喋々しても國交際の大局は動かす可らず、早く自から將來の謀を爲す可しと勸告するまでのと也。

○北海道

榎本子歸京す、黑田伯との談合果して何如よ、今の如く國民局部にあくせくする時、北海よ一大利源あるとを認知せしむるは願ぶる可也、日本貧なるを憂いず、たゞ人々の奮發せざると、大觀長計せざるとを憂ふ。

○新聞紙なくんば天下太平

常に思へらく、新聞紙なくんば天下太平なりと。必らずしも新聞紙みな天下を亂すものと云はず、今の新聞紙の如く只だ一方に凝り固まりて八面玲瓏の見識なきものは、大率れ天下を亂し易しとは云ふ。政治社會左程に八釜しきにもあらず、壯士さほど恐ろしきにもあらず、内閣左程有がたきにもあらず、文學さほど面白きにもあらず、只だ各々其一方に凝りて二三ヶ月毎にたゞ一つの時事談を製造し、其當坐は今日も明日も明後日もたゞ〳〵其事計りを言ひ居るゆへ、遂には之に動かされて輿論も暫らく引立つなり。此に至つて輿論々々と云ふ、如此き輿論は決して頼むべきものにあらず。

堯舜の政

吾人は其救濟法として嘗て一策を呈したり、云はく新聞記者には普通學を學びたるものを採用すべしと。今の記者諸君は大抵政治學もしくは文學なのみ學び玉へり、故に之のみを好み玉へり、紙面の自から一方に偏するを止を得ざるもの也、左れば今後は普通學のテースト(趣味)ある人を採用すべしと。或人は云はく、現今如此き人は少なし、寧ろ樣々の專門人を用ゆべしと、然し今の新聞社は金不足にしてかゝる多人數を用ひがたし。

土階三等策

今ま吾人は更に一策を獻ず、兎に角紙面を割りて樣々の欄を設け、西洋の新聞の如く、時事、社說より家政、交詢、農作、工業、傳記、學術等の欄なども設け置き、成るべく種を作りて之を埋むるやうにする也。斯る時には、壯士とか官員とか戯作評とかもしくは下らぬ人々のうわさとか云ふものに迄で欄を設くることは出來ず、自づから他に制せられて今の如き片よりは減ずるに至らん。

○土其兒軍艦沈沒

あゝ悲しき哉、日本皇帝陛下に、勳章を奉まつらんとて、わざ〳〵來航したる土其兒の軍艦エルトグロール號、沈沒せり。土其兒もし富强國ならば、航海の準備、機關師の用意など更に十分なりしものを、今の國勢にして而も遙々我國に好みを修めんとして來り、而して此の大不幸に會す、むかしの神風によし靈ありとするも、今の紀伊嵐には心なかりつらん、吾人甚たく之を歎く。府下各新聞紙社に於て其義損金を募ると頗ぶる善し。勸むらくは同情の兄姊、奮つて之に應ぜんことを、吾社も之を其社に取次ぐの勞を辭せざるべし。

○赤十字社

右に付き、赤十字社の報告に云く、

仍て本社は皇后陛下慈愛の御旨を奉體し且宮内省より丹羽式部官を派遣せらるに依り同氏に隨伴せしめ醫員二名看護婦二名に治療器械綳帶材料藥品等を攜帶實地救療に從事の爲本月十九日午後四時四十五分新橋より發程せしめたり尙出張先の摸樣は追て報する所あるべし。

○ドラモンド氏來る

靈界理法論の著者、教授ドラモンド氏來る。其の豫生館に於ける「日本には日本風の教會を作るべし」の說、並に其の島田三郞氏方小集會に於ける、基督神性論、ユニテリアン反動論、神學自由の辨の如き、當路の人を益せしと莫大ならんと思はる。基督教の傳はらざると懷疑論者あるが爲め耳にあらず。實に傳道師其人を得ず、傳道法其途を得ざるに由る少しとせず。日本傳道者が外國宣教者を見ると、猶ほ日本平民的基督教々徒が、日本の貴族的傳道者を見るに同じ、基督教々師たるもの今や實に大誘惑の機に際す、奮つて其天職を盡すものに非ずんば須からく辭職すべし。傳教教師の人物は、拔手とか、神學講義とか云へるものにて出來るものにあらず、造られしにあらず、生るべきもの也。

○淨土宗訓示

宗の管長は左の如く訓示したり、

寺院内に於て異教の集會講筵又は其葬祭等を施行せしめ若くは寺附墓所に異教徒を埋葬せしむるは勿論其の他淨教の道場たる本旨に背く所業は寺院に於て之を爲すべからざる旨に候條心得違無之樣注意すべし。

斯ては、遠からず、佛教界にも、坊守と教導職との分離論を喚起するに至るべし。

○美　　談

「日本」の雜報に云く、

兆民子頃ろ南海伯を訪ひ予は今度の新聞紙はトテモ駄目なりと思ひ切り退黨せしに翁は却て入黨したるは如何と問ひしに伯は余が入黨したるは足下の如き人が退黨するに由るなりと答へたりと兩者の性行を見るに足る。

政海には稀なる美談。

○盲人の東向會

目の見へぬほど可愛相なるはなし、盲人の偏窟にして分らぬほど憫然なるはあらず、近時其仲間追々困苦すとて、有志家平野文氏等東向會と云へるものを設け、

一 盲人獨立の基礎を鞏固にする事
二 盲人自治の規定を立る事
三 各府縣に訓盲院を設る事
四 盲人職業の範圍を弘むる事

の四條を決せしよし。其能く成立ちて且つ發達せんとを希ふ。

○貧民救助策

内務省より、第一の帝國議會に貧民救助法の案を提出せんとするよし、案文の何如なるかは未だ承知せずと云へども、兎に角注意すべき處ろなり。

○大阪婦人學習會の運命

同校は今より四年以前女學論の喧がしかりし頃十時三郎森貞次氏等の創立に係り一時建野知事兒島控訴院長高島中將等の令夫人を始めとし朝野の令閨貴嬢皆靡然として該校の門に趨れり然れ共世論漸く一變し保守的反動の潮流に遭ひ未だ幾くならずして校運日に傾き二十二年の春尾より夏に入り殆んど門前雀羅の歎を發するに至る當に於てか前の監督ウイリアム氏は深くこれを憂へ該校と米國傳道會社との門に斡旋せられ年に四百弗宛の補助金を下だす事となりしが今年に至り忽然ミッション會議は右補助金の下附を廢せりとなれば此報の一たび該校に達するや役員は申に及ばす平素望みを同校に繋ぎ居し人々の失望落膽名状すべからず咄嗟有馬に會合して一大會議を開きしに會々東京より常置委員カーデナル氏來り會し大に盡力せられて諸教師より義捐を募り東京よりミス、スプレーグ女史を送り今一ヶ年間繼續せしむる事となりしといふ。

片々

ふみ子編

●今日世界の人口　凡三十億人此内每年の死亡は殆んど三千三百万人にして每秒恰も一人の死亡に當る又國語を區別すれば三千六十種にして生活の年限は平均三十三なりといふ。

●杉瀧子逝す　吉田松陰翁の實母にして翁が莽歿なる山口縣萩の松下村なる松下村熟に在りて老後を養ひ居りし杉瀧子は去月二十九日行年八十六歲を以て逝瑞他界の客となりしが此事畏くも　皇后陛下の御聞に達し此程金百圓を賜ひ厚く追弔の旨を仰出されし由に承る。

●香坂茂子　神戶女學校の卒業生にして數年間明治女學校或は成立女學校の教師として働き居られしが、今度仙臺高等中學校醫科教諭醫學士水野欽氏と結婚されし由。

●富岡製絲所の拂下　富岡製絲所は彌々拂下に決し近日公賣入札人の資格等を發布する由。

●津田品子女史逝く　女史は元老院議官津田出氏の令嬢にて本年未だ廿歲の妙齡婦人なるが學問を好み音樂に長し又英佛獨三國の語にも通し交際社會有名なる人なりし由なるが先頃より腎臟腫瘍症に罹り藥石其効を奏せず遂に去る廿日長逝せられたるよし。

●日本樂曲會　如電居士大槻修二氏は今度日本樂曲會といふを起し其第一回を廿八日午前九時より上野公園の美術協會列品本館に於て開かるゝよし。

●印度に於る婚姻法の改正　印度にては男女とも小供の時より婚姻する事なるが此頃は此弊風改良の議論盛に行はれ「マドラスインド婚姻協會」にては婚姻年限を十四歲以上に限るべき法律を制定せんことを政府に建白せりと。(國民新聞)

●高田私立女學校　仝校は地方有志の設立に係るものなるが基督教主義に依りて生徒を教育す生徒の數は目下三十余名にて教員は外國教師一名本邦教師五名にて熱心に教授に從事せらるゝよし教科の程度は高等小學の教科に相當する位にて校内には寄宿舍の設けもあり將來望みある學校なるよし。

●私立德山女學校　仝校は山口縣都濃郡德山村にあり素と白蓮女學校と稱へしものなるよしなるが這回標題の如く改稱し汎く有志の寄附金を募りて一層其校務を擴張せんとし目下發起人に於て夫々盡力中のよし。

●防長婦人相談會　といふは前掲德山女學校内に假設しある會にして每月一回常集會を開き慈善宗教教育衞生家政育兒等に關する演說講議談話及討論等をなし會員は每月會費の外に各裁縫毛糸編物其の他の手藝品を各自に義捐し之れを望の者へ賣渡して其收入金を慈善の事業に充つる事になし居らるゝよし結搆なる事といふべし。

●貧民救助の音樂會　京都にある基督信徒は貧民救助の爲去る廿日音樂會を鴨東祇園舘に催ふしたるよし。

●女工の教會加入　京都製糸會社の女工百二十名は今回殘らず京都婦人教會に入りたれば社長は彼等の爲に時間を與へて爾後每月教話を聽聞せしむるよし。

●伏見婦人慈善會　は明治廿二年三月に創立したるものなるが目下會員二百名程あり每月第二土曜日に其例會を伏見町字風呂屋町西方寺に開き學者に乞ふて慈善教育衞生等に關する講話をなせり會長は荒井郡長の夫人にて荒井しげ子といふ若も男子の扶けを須たず婦人のみにて維持し地方には珍らしき盛大なる會合なり會長を始め幹事等一切綿服にて集會する事に定めあるを以て每回出席人員も少なからず是迄脚水害遭難者貧者病人などに會費を施與し來りしが今度又貧病院を起さんとて目下相談中なりといふ。

●近江婦人慈善會　同會は中井前知事夫人の盡力により漸々盛大に赴きしが知事榮轉の際同夫人も會頭の職を辭し岩崎知事夫人を推して之に代らしめしなり該會目今の働きの一は公立大津病院へ年々百圓の金額を寄附し貧困者の食費施藥等の事を扶助するにあり目下四人の貧病者は之が治療をうけいづれも病院の待遇あつきに感じ全癒の上は該會に向て充分謝せんといひ居るよし。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

●慈善幻燈會　土耳其軍艦の沈沒を弔はんが爲め横濱の禁酒會員は去る廿六日居留地山手フェリス女學校に於て其昨廿七日は湊座に於て演說をなし慘ましき模樣を幻燈に寫して慈善家の義捐を促したり。

●桂次官の夫人　仝次官夫人は産後肥立悪しかりしため廿一日午前六時黄泉の客となられき。

●札幌婦人慈善會　といふは札幌南三條西二丁目十五番地にあり專ら札幌區郡中の貧困者若くは出産者死亡者疾病者等を救助するを目的とすといふ。

●洪水罹災者救濟の義擧　福島基督假教會の人には今度仝縣下洪水の罹災者を救濟せんとて檄を四方に飛ばし義人の喜捨を促し居れり。

●高知英和女學校　は是迄米國人三名内二名婦人本邦教師數名にて教授し來りしが今度又米國女教師ムーア夫人を增聘して一層教育事務を擴張せらる。

●又仝地の土陽新聞は去る十五日より其紙面を擴け其記事を改良したり仝日は立憲自由黨及同主義諸名士の祝詞を載せ紙面一段の光榮を添へたるが仝新聞が十年一日自由主義を採りしは世人の知る所なるが今後も亦阪本直寬氏主筆となり獨仝主義に依りて其健筆を振はるゝといふ。

●雜誌上の口入屋　大阪東區北久太郎町三丁目山口信太郎氏は今度本社の交詢案内に倣ひ基督教青年紙上を借り受て交詢案内の一欄を設け專ら基督教社會の雇省被雇者の爲に紹介の勞を採らる。

●むさしの新聞　來る十月五日より標題の如き新聞を京橋區銀坐四丁目の武藏野新聞社より發刊す。

廢娼記事

●「日本」の廢娼論

「日本」は其九月廿一日の社說、に風俗上の警察と題し、急激なる廢娼論には固より賛成せずと云へど、公娼公行の制は嚴然取締らざる可らずと極論したり。

●廢娼壯年義會

今日上野公園内に大運動會を催ふし、板垣伯、及び植木枝盛氏も來會の都合なりと云ふ。又去廿四日は三田赤羽根橋ギハ瓦屋に於て廢娼演說會を催ふし、主も會員中にて熱心演說したり。

●横濱の運動

一、横濱靑年會が廢娼建白書を知事に捧呈せんとて運動しつゝあることは屢々記する所なるが愈々來る十月十五日捧呈せんとて去る十八日廢娼委員評議會に於て左の三氏を捧呈委員に撰擧したり

熊野雄七（前會長）
雪岡重太郎（現會長）
佐々木笑受郎（廢娼委員）

二、尙ほ一層此運動を盛ならしめん爲め來る廿九日大演說會を催さんとて委員等目下準備中なり東京よりは岩本善治氏及び壯年義會より一名を招聘する都合なりと云ふ

三、建白書捧呈の當日までに尙ほ數多の賛成者を地方に蒐集せん爲め佐々木笑受郎氏は再び出發遊說の途に上るべしと云ふ

四、帝國議會も近き内開會の事なれば之れに向て建議せんとて目下其準備に協議中の由盛なりと謂ふべし。（横濱通信員）

●神奈川縣　（其二）

佐々木笑受郎

三浦郡

に赴けり同郡四名の議員あり内古谷長島の二氏は横須賀町に現存の妓樓と最も近接の關係を有するの人なりと聞知せり故に余の彼等を訪ふや建白に記名調印よりも先づ其關係を切斷すべきを勸告せんとの覺悟なりき古谷氏には面會の折を得ず長嶋氏は東京より來客あり多忙なれは會談し難しと余は幸に寸時を貸されんを求めたれとも容れられす空しく立ち去りたり妓樓に關係ありとせは亦當然の處置と云ふべきか然れとも堂々たる國會議場にも縣會議場にも此類の人ありと思へは笑受郎は轉た浩歎に堪へざるなり噫

時恰かも炎熱燒くが如く雜草の呼吸はさながら蒸すが如し笑受郎田徑を剩りて石渡氏に歩す則ち請ふに廢娼建白に賛成の事を以てす氏の答言に因て其意を察すれは蓋し道理は之れを廢すべく實際は之れを存せざるべからざる如しとの二岐の間に迷ふものが余は之れを解かんと欲して談論一時余に及べとも暫時熟考の暇を藉せと云ふに任せて歸り人に會ふて談偶々若命氏の事に及ぶや其人氏の不在なるを告く余は其行を止めて直に横須賀より滊車に搭じたり爲めに三浦郡撰出の議員中我運動を賛成するもの未だ一名も見ず然れとも横須賀靑年會は此横濱靑年會を補助することと甚だ篤く即ち代て三浦全郡に其運動を試みんと約したれは定めて好結果を見るを得べしと信ずるなり

記して玆に至り聊か補錐の勞を取らざるべからず以上列記する所は專ら縣會議員を訪問せし事耳なれども實は此間東西に走りて土地の有志者の調印をも得つゝあるなり而して今日まで我青年會が手を分けて得し調印の數は二百數十餘の多きに達し尙ほ日々贊するもの〻數を加ふ一般の評は成功＝公娼全廢＝の日は本年末若しくは來春に在るべしと前途果して如何

滊車は駿として已に平塚に停まる此所より

高坐郡

に入る全郡の議員四名其住む所南北に隔絕す地圖を案じて始めより區別して巡回するの不利なるを知る即ち北方は他郡を巡回貫通して行くべく南方は平塚ステーシヨンより二里弱の地なり菊池小兵衛氏の宅は則此地にして恰も氏は繭の取込を爲し居れり以て知る氏は自ら農桑を勉むるの士なるとを氏は笑受郎の申込に對して衛生上の疑問ありとの故を以て凡て他の贊成の點を拋たんとす於是か笑受郎は短才不學ながら揣摩其疑問に答ふるを敢てすべしと言ふ氏默考すること良や久ふす思ふに氏は果斷の調士決然として起て記名したり調印せり而して曰く勿論調印する以上は身を以て其志操を貫徹すべし君（笑受郎を指す）も亦之れを勉めよと其熱心滿顏に溢れて實に賴母し陶綾兩足柄を通して再び高坐郡に出てたり大島正義山田嘉毅志村大輔の三氏共に大に之れを贊成し重れて余か勞を慰められたり因に記す山田嘉毅氏は本年臨時縣會に議長席を占めたるの人なり玆に高坐郡撰出の全員四氏の捺印我建白書中に赤し。

●山梨

來信に云く、上署、先般御來峽被下候以來大に人心感奮し入會者多きを加へ從て各地方の有志者より續々其地に演說會を開かれたき旨申越され候に付近々の內、石和（イサワ）、松嶋、龍王（リウワウ）、小笠原の各地に遂次一會づゝ催す事に決定いたし候將又縣會開期に先立ち目覺敷一と運動致度候へば當府にてはそれ迄勇氣を養ひ猶兄より御演說の筆記（或は御文章か）御送被下候を待て直に印刷に附し此を配布しつゝ或は路傍に立て演し或は登樓者に說かんとの計畫に御座候早々。

●埼玉縣

廢娼壯年義會員河原久二郎氏は、埼玉縣扇町に遊說し、四回廢娼演說會を催ふし、特に壯年義會の支會を設けんとす。

通信

●上州前橋

通信員　永山　悌太郎　報

●婦人會　當地には婦人の會合甚だ多し、佛教信徒の發起になれるものを上毛婦人教育會と稱す佐藤知事の令室之が會長たり上毛各郡へ跨るものにて會員は余程澤山なるが如し春秋大會あり唱歌端物和歌挿花などあり每月に會合あれども社會的の事には少しも頓着する有樣なく「アレデモ利益ガアルカ」と疑はしむる位なり○耶蘇教信徒の重もに盡力するものを前橋婦人會と稱す、會員は少なく目下甚た振はす廢娼論にも耳を傾くる者なきが如し○小學校女教員の設立に係るものを上毛婦人協會と稱す會員二三十名每月例會あり家政學衛生學などの講習を爲す皆妙齡の婦人のみなり少しく社會的の運動をも爲さんとせしが婦人の運動には自ら世間喧敷ゆへ躊躇逡巡して進まざるが如し。

○女學校　二あり一を淸揚女學校と云ふ佛教徒の設立せし處なりしが此程集成學舘と云へるに合併せり。

一を上毛共愛女學校といふ、嘗て報せるが如し（二二六號）本月十日より授業を始む、他に上毛產婆學校一つあり。

○貧民學校　も二あり報國小學簡易科學校といふ小林某氏の建る所ろ教師三名生徒五十余名簡易の學科を教ゆ福田小學校と云へるは増田嘿童氏（橋林寺住職）の獨力になれるもの目下生徒百余名ありて教師は二人なれは午前午後に分ちて教授す重に習字學を旨とし傍ら小學簡易科を教ゆ。

○慈善救助會　前橋積善會といふ會長は下村善太郎氏副會長は須田傳吉氏明治十三年の創立なりしが中ごろ自然立消の姿となり昨年更らに再興せしものなり增田嘿童生洲覲瑞氏及市中の醫師諸氏專ら盡力して貧民に施療券を施し又直接に金圓を送りて救助するものもあり目下會員三百名會員は每月三錢の義捐金を出すの定めにて他は寄附金なり。

週報

○官令　本週法律八十四、八十五、八十六號、及び勅令二百八、九、十、十一、十二號等を裁可公布せらる。

○宮廷　十七日皇后陛下青山御所へ行啓●十九日天皇陛下內閣へ臨行あらせらる

○政治　十六日內閣會議に山縣、西鄕、山田、松方、大山、後藤、青木、樺山、芳川、陸奥の十大臣登閣せり●十八日內閣會議開かる●十九日各大臣は參集して御前會議を開けり●廿一日木挽町厚生舘に於て立憲自由黨大演說會を開かる同日江東中村樓に於て東北六縣の進步主義者大懇親會開かる。

○教育　廿一日日本法律學校開校式執行せらる。

○會社　廿三日株式取式所延期の祝筵開かる。

○雜報　十六日夜土耳古國軍艦エルトグロール號は紀州沖に於て沈沒し大使オスマンパシヤ以下五百余名溺死したり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

夏季休業中の女學雜誌

青年男女の學生諸君、炎暑を山林幽邃の地に避けて閑書静讀し、此際總じて雜誌新聞紙の愛顧を欠きたる憾み少なしとせず、今や鮮新爽快の活氣を以て復た此度復校せらるに會し、此の暑中二ヶ月間の雜誌を顧慮して、舊友と再たび握手せらるゝは當に其の温情の尤も愉快を感じ玉ふ所ろあるべし。女學雜誌は云く、妾は、又、生は、

社說に於て

「詩仙」と云へる、幽にして高く、淸くして趣きある詩論三篇を本誌二百廿一號以下三號に分載したり。題を分つて、詩とは何如なるものぞ、歌の論、歌の弊、歌の美、万葉集、宗敎心なし、貴族的なり、優弱あり、長歌長からず、歌の佛性、歌の未來、の十一節となす。蓋し詩人文學者一讀の價ひあるべし。

「細君内助の辨」三章は、二百二十四號以下三號に見ゆ、伉儷和樂、團欒ホーム團欒、内助優貞の諸德を叙述して殆んど洩らすとなく、自ら時弊に向つて一大針を挿入したり。

第二百二十六號の「鴫立澤に於ける西行」は、句々凄涼、或は哲學論あり、或は禪定禪見あり、或は流轉盛衰を大悟し更に一頭卓歩するの大觀念あり、人云く、近來の好文字と、若し然るとあたはざるも亦た讀者の一願を煩わすに足るべし。

第二百二十七號「青年に警告す」の一篇は、大ひに青年諸氏を警激痛泣せしめたり、同號の「良人ある寡婦」の一篇は、多數多恨の婦人に代つて其の深意微情を代言し盡し殆んど餘蘊なし。

論說に於て

在ハワイ受洗の始末(安藤太郎君)第二百二十一號以下三號分載

慈善事業に對する婦人の心得(スピンチル君)第二百二十二號

女子敎育の私見を述て巖本兄に寄す(寺尾熊三君)第二百二十四號

内助の功益(中島とし子)第二百二十六號

何故に女子は政談集會に參聽するとを許されざる乎第二百二十八號

幼稚園の論(豐田芙雄子)第二百二十九號

議員、官吏、有志者に呈す

拜啓益々御淸安奉賀候國家の爲め重職に就き日夜御黽勉乍憚邦民の爲に鳴謝致居事に候陳者近年女子敎育頗かに進歩し二十三十にして初めて女學校に入る人も多く有之の勢ひ尋ばしきとと存候然るに既に一家の妻とあり特に多忙多用の良人を内助せらるゝの令閨諸君は出でゝ學び給ふの暇ま固より少きの處ろ、世は息まず開化し婦人の地位著じるしく進歩致候に付きては、今後婦人同性の往來は彌よ自由になり女性が外に出でゝ宴會交際に周旋せらるゝと亦彌よ頻繁と可相成歟其際賢夫人にして萬一普通一般の學識に欠くる如きと有之時は談話應接の砌り面白からぬと數多出來すべくと密かに掛念するも少からず候。

弊社此等の不便に痛歎し、毎月一回通信女學講義錄と云へるを出版し、學校に通はれぬ婦人は家に居て獨學する樣、當今の女が心得べき學問を悉く講義し、一日四枚宛讀む時は家政、育兒、看病、衞生、生理、漢學、和學、英學、歌、百人一首講義、作文、算術、動植、理化學、萬國及日本の歷史、並に地理、等を一年にて滯りなく卒業し女學雜誌社の卒業證書を受くるの規則を設け講義錄の文章は分り易き上に一々假名を附け、且つ給を入れ、尚不明瞭の所は質問に答へ專ら信切を旨とし、學校にて直ちに敎授を受くるよりも一層便利多く致候、毎月々謝卅二錢拂込の人には二百枚餘の講義錄を月々送ることに候目下既に第八卷を出版致たれども、今月新たに入學し其第一卷より順次に稽古するも宜しきとに候。

右の主旨何卒御賞玩被下弊社の精神御吹聽の程偏へに奉委賴候、凡そ賢夫人家に居て内を修むるの暇まく〳〵、悉皆講習の上に内助の德一きわにして所謂烈夫賢妻共に國事に盡力するの美觀國中に充滿するに至らば邦家の幸福至大にと存じ候敬白

右通信女學講義錄壹冊三十二錢(全國無郵税)毎月十日出版、半年前金壹圓八拾錢。一年前金三圓五拾錢。女學雜誌と併せ講讀の人には壹割を減す。

東京市麴町區六番丁六番地

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれ〴〵草講義	一冊	價金十錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越縣太郎君著	產婦小兒攝生法	一冊	同十八錢
關綸正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同廿五錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三著	植物學	一冊	同五錢
林學生原野愼著	昆虫 植物 金石 採集法	一冊	同十五錢
明治女學校教師八木保辰著	和書手本	四冊	同四十五錢
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同八十錢

下六番町六番地
女學雜誌社

女學生

●毎月一回　●廿日發兌
●本誌は京濱間十又五の女學校同盟聯合して發行するものなり

今や我國の文學愈盛なりとす女子たるもの亦學問に通し文章をよくするの必要ある此に喋々するを待たずして明かなるべし女學生の出る誠に偶然ならず、尙何處の女學校を問はず同盟に加はらんとするものは續々申込みあるべし●文學會は一校と生氣となるべきものなれども今日女學校内の文學會も盛なるはなかるべし女學生は各學校文學會の中心となり記錄となり廣告となり且奬勵者たらんと欲す

●社說には學藝上の論說を掲け文欄には女學生諸子の文章を載す同盟に加はらざる女學生より投寄の文を寄書となす其他公評、女生交詢、報告、講武等の諸欄を置き專ら女學生の益ならん事を計る

下六番町六番地
發行所　女學雜誌社

女學雜誌廣告の文

女學雜誌と云ふ雜誌は、總べて女の心得に成ることを書きたる者にて、娘の爲めには學問の仕方より身のたしなみ方、朋友への交はり方、親への仕へ方などを細かに敎へ、妻の爲めには家の修め方より、料理、ぬい針、下女の使ひ方を初めとし、良人へ對する心得、姑舅へ對する心得、兄弟へ對する心得に至る迄で鄭寧に敎へ、母の爲めには、妊娠中の愼しみ方、產前產後の用心、子供の育て方、敎育の道理などを綿密に敎へ其上世の中の有樣は如何かにて之に對する女の心得は如何ん世上の女は如何やうに開化し、女の風俗流行は如何樣に變るかの事より、大なるは最も良人の一身に關はる世の大變を初め、小さきは物の直段の高下、品物の有り無し、雇人有無の景況に至る迄で、凡そ一國人として、一女子として心得置ねば成らぬくさ〴〵の事を、洩さず落さず、極く分るやうに書列ねたるものなり。

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の教員孰れも熟達善良あり然して本校の教授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地 **東洋英和女學校**

廣告

木村熊二、田口卯吉兩君序○關輪正路君纂著

女子必携 **今世ひめ鑑** 全一冊 賣價四拾五錢 郵税拾四錢

凡そ當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵記載し有之候盖し昔の「ひめ鑑」の重寶ありしとを御存知の方々は此開化したる當世のひめ鑑も亦同樣に助けあるとを想像し玉ふべし

佐々木豐洲女史譯

婦人言論の自由 全一冊 賣價八錢 郵税四錢

右は婦人の言論に關するとに付き切論せられたるものなれば姉妹方の必ず閱讀せらるべき價値あるものなり

發兌 麴町區六番町六番地 **女學雜誌社**

女生徒募集廣告

學年試驗ヲ了リ內外ノ教師ヲ增聘シ本月十日ヨリ始業ス各級入學ヲ許ス委細ハ本館規則ニ就テ見ルベシ

明治廿三年八月

麴町區上六番町十七番地 **開成女學館**

華月館詩文添削批評規約

第一條 詩文ノ添削批評ハ丁寧精密ヲ主トシ吟誦ノ間容易ニ詩文ノ秘訣ヲ會得セシメンコトヲ勉ム

第二條 詩文ノ添削批評ヲ囑托スル者ハ各自隨意ノ謝料ヲ草稿ト同時ニ爲替若シクハ郵券ニテ送附スヘシ

第三條 傑作ハ新聞雜誌ニ載錄シテ作者ニ贈寄ス

第四條 入館金五拾錢前納スル者ヲ華月館々友ト爲シ證票ヲ付與ス

第五條 館友ハ滿六箇月間每月文一篇詩五首限文體詩體ヲ問ハス無料ニテ添削批評ヲ囑托スルヲ得 但文ノミナレハ每月廿篇詩ノミナレハ每月十首限トス

第六條 入館金三拾錢前納スル者ハ滿三箇月間館友ノ資格ヲ有ス

第七條 館友ハ詩文上百般ノ難疑凡テ無料ニテ質問スルコトヲ得ベシ

第八條 返稿期限ハ館友三日間其他ハ五日間ト定ム

陸奥國弘前百石町 **華月館 河村巖城**

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

横濱土産花織錦開業廣告

神奈川縣久良岐郡戸太村
紙布製造人

川崎花

私多年改良織立來リシ紙布織ヲ今回白井ます子ト特約ヲ結ビ賣出シ開店仕リ候未ダ不經驗ニシテ諸氏ノ御需用ニ充ツヘカラズト雖妾ガ女子社會ニ實業ヲ起シ同類女子ヲシテ職業ニ就カシメ供ニ自活ヲ計ラント立志セシハ明治十一年ナリ而シテ決定本業ニ從事スル同十八歳既ニ六ノ星霜中吾ガ理算ハ世上ノ實際ニ反對シテ艱難ノ里程ヲ踏ミタリシ其困苦ヲ忍ベル毎ニ濁々タル涙板ニソヽギテ斑文ヲ染出シタリ是花織錦ノ本色ニソ自分工夫ノ製品也今ヤ横濱ニ土産物ナシ其品善惡如何ヲ自カラノ一分トナシ長ク古郷ニ志ヲ遺シ且ハ錦ヲ着ケントス

世ノ廣告家自分製品ヲ無類飛切云々ノ語アリ自已ノ製品賞セバ自負ノ恐アリ而シテ他人ニ進ムル只々麁惡ト云ハ不可故ニ自分廣告ハ善ト惡トノ中分也其實際御需用御試驗之上御批評ヲ希望ス謹言

横濱市馬車道通常盤町
五丁目七十七番地
花をりにしき一手賣捌注文所

白井ます

私義川崎花子ノ女子社會ニ實業ヲ成立シテ同類我等ガ自活ヲ計リ職業ニ就カシムルヲ贊成シ微力ナガラ氏カ苦心ノ一分ヲ負ヒ花おりにしき賣捌仕候花ニ熱心ニ織ルモ世ニ廣益ナケレバ所謂闇夜ニ錦ノ類哉依テ販路ノ紹介者トナル希クハ諸氏ノ御贊成アッテ一本ヲ購ヒ御試驗アランヿ同氏織物種類多シ土産ハ安價ヲ旨トシ專門ニ織出スハ男女用帶地。フトン地。羽衣地。ナリ其他窓掛。テーブル掛。幅地。唐紙地。額面等ハ御注文ニ應ジ候功用ハ濕氣ヲ受ケズ洗濯シテヨシ

土産物價額
上等木綿製女帶地

金七十五錢	丈一丈五寸	幅九寸
金五十錢 中等ハナミ物	右同斷	
金三十五錢	丈八尺五寸	幅八寸五分

右之通リ開業ハ本月廿五日ヨリ

榊順氏の懇篤なる治療保護、高原峯子の信切周密なる産治により、夫人安產母子共に健全に候間、知友に謹告し、且二氏の恩を謝す……巖本善治

定價

一冊。	六錢	郵稅。五厘	(但府内無郵稅)
十冊。	五十八錢	郵稅。五錢	(同前)
半年分	一圓四十三錢	府外は	一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

一行	一回	(廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

發行所
東京市麹町區下六番町六番地
女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY